

第2回 「住まいの温熱環境の実態と満足度」 調査報告書

2017年6月30日

あたたかい暮らし研究会

旭化成建材（株）快適空間研究所 旭リサーチセンターハビトゥス研究所 首都大学東京 建築学域 須永研究室

内容

I. 調査の背景・目的

II. 調査概要

III. 調査結果

IV. 今後の活動計画

I .調査の背景・目的

I. 調査の背景・目的

1. 調査の背景・目的

旭化成グループでは、2016年度より3カ年の中期経営計画「Cs for Tomorrow 2018」*¹をスタートさせ「クリーンな環境エネルギー社会」「健康・快適で安心な長寿社会」の実現に取り組んでいます。その中で旭化成建材が属する住宅領域は、「人びとの健康で快適な生活に貢献し続ける」ことを目指しており、断熱材事業の拡大は重要な事業戦略の一つです。

旭化成建材では、健康管理や省エネの視点から、住宅を適温に保つ断熱性能が重視されていることなどから、高気密・高断熱住宅の普及のために、顧客である断熱材ユーザー様や施主様に向けて、以下のような活動を行って参りました。

2014年4月：「快適空間研究所」*²を設立し、室内の温熱環境の研究、マーケティング活動などを開始。

2015年1月：建築、環境、生活者などの視点で、居住空間やそこでのライフスタイルの研究をさらに進化させるために、旭リサーチセンター及び首都大学東京 建築学域 須永研究室とともに「あたたかい暮らし研究会」*³を発足。

2016年2月：「住まいの温熱環境の実態と満足度」調査実施。

2016年8月：第1回「住まいの温熱環境の実態と満足度」調査報告実施。

2016年8月：2016年度夏の「住まいの温熱環境の実態と満足度」調査実施。

2016年9月：初の生活者向け（女性限定）セミナーを実施。

2017年1月：工務店様向け「快適空間ラボラトリー」*⁴をオープン。

2017年2月：生活者向けワークショップ、快適空間体験ツアーを実施。

2017年3月：2016年度冬の「住まいの温熱環境の実態と満足度」調査実施

超高齢社会ともいえる今日、異常気象等の影響もあり、建物内でヒートショックや熱中症で亡くなる方が増加し、社会的課題の一つとなっています。一方、人生90年時代において人生を長生きするだけでなく、いかに生き生きと暮らしていくかという生活の質も問われる時代になっています。

今回の調査では、首都圏に加え、北海道、宮城県、中京圏、阪神圏、福岡県を追加し、夏季と冬季の2度に分けて室内の温熱環境とそれらの満足度の実態を調査するとともに、男女別、築年数別、季節別、部屋別の満足度と暮らし方などを分析し、温熱環境と生活者の実態を明らかにしました。

＊ 1 旭化成グループ新中期経営計画 “Cs for Tomorrow 2018”

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

(1)旭化成が目指すこと



***2 快適空間研究所**

- 1) 名称：旭化成建材株式会社 快適空間研究所
- 2) 所在地：東京都千代田区神田神保町1丁目105番地 神保町三井ビルディング
- 3) 設立：2014年4月
- 4) 所長：白石 真二
- 6) 目的：
 - ・快適な空間を実現するための情報収集と分析及びそれらの結果を踏まえたコンセプト開発、マーケティング活動等。
 - ①一戸建の温熱環境と生活実態の把握による居住空間での温熱環境ニーズの発掘
 - ②活動方針に共感いただける社外の関連企業、大学等の研究機関、行政、生活者等との共創
 - ③研究成果の社会や生活者への情報発信と断熱材事業へのフィードバック

***3 あたたかい暮らし研究会**

- 1) 発足：2015年1月 快適空間研究所内に発足
- 2) 主な活動
 - ・あたたかく生き生きと暮らすための居住空間とライフスタイルの研究。
 - ①調査活動：住まいの温熱環境や生活者の暮らしに関するアンケート・訪問・実測調査等の実施
 - ②啓発活動：生活者の温熱環境に関するリテラシー向上のためのセミナー、ワークショップ等の実施
 - ③情報発信活動：生活者に向けたHP、冊子等での情報発信
- 3) 主なメンバー
首都大学東京 建築学域 須永研究室、旭リサーチセンター ハビトゥス研究所 旭化成建材 快適空間研究所

***4 「快適空間ラボトリー」**

- 1) 名称：旭化成建材 快適空間ラボトリー
- 2) 所在地：茨城県猿島郡境町陽光台（旭化成建材 ネオマフォーム工場近接地）
- 3) 敷地面積：1451㎡
- 4) 建物概要：①体験棟 木造2階建 延床面積130.1㎡ ②展示棟 木造2階建 延床面積225.8㎡
- 5) 断熱性能（体験棟）： U_A 値 = 0.20 (W/㎡・K)
- 6) 開設日：2017年1月11日

Ⅱ. 調査概要

Ⅱ. 調査概要

- 調査目的

住まいの温熱環境の実態と満足度及び生活者の意識・行動の実態を調査することで断熱材事業におけるコンセプト開発・マーケティング活動の一助とする。
- 対象者条件

サンプリング条件①： 全国6地域を対象とし、性・年代別人口構成比でウェイトバック集計を実行した。

調査名	N値	北海道	宮城県	首都圏	中京圏	阪神圏	福岡県	合計
2016年8月	実回収N値	100	100	100	100	100	100	600
夏季調査	ウェイトバックN値	38	20	248	105	131	38	579
2017年3月	実回収N値	107	105	102	108	104	111	637
冬季調査	ウェイトバックN値	43	23	254	109	130	47	606

サンプリング条件②： 20代～60代の比率、男女比率を均等にとすることと、築年数の割付に配慮した。

～10年	～20年	21年以上
約25%～40%	約25%～40%	約25%～40%

サンプリング条件③： 一人暮らし(单身)は除いた。

調査方法

インターネット調査

調査期間

夏季調査： 2016年8月26日（金）～ 8月29日（月）
冬季調査： 2017年3月3日（金）～ 3月6日（月）

調査会社

（株）マーケティングディレクションズ

Ⅱ. 調査概要

フェイスシート

	ウェイトバック N値
2016年8月 夏季調査	579
2017年3月 冬季調査	606

(%)

性別	男性	女性
2016年8月 夏季調査	52.5	47.5
2017年3月 冬季調査	48.9	51.1

(%)

築年数	築0～10年	築11～20年	築21年以上
2016年8月 夏季調査	32.2	29.9	37.9
2017年3月 冬季調査	25.6	34.4	40.0

(%)

年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
2016年8月 夏季調査	20.1	19.5	19.5	18.3	22.6
2017年3月 冬季調査	15.5	20.0	21.3	20.3	22.9

(%)

エリア	北海道	宮城県	首都圏				中京圏				阪神圏				福岡県
			埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	
2016年8月 夏季調査	6.6	3.4	11.6	6.0	13.2	12.1	3.2	0.2	11.2	3.5	5.0	10.4	7.0	0.2	6.5
2017年3月 冬季調査	7.2	3.7	9.4	7.8	14.7	10.1	4.1	0.4	10.8	2.6	4.9	9.0	7.5	0.0	7.7

Ⅲ. 調査結果

1. 基本データ編

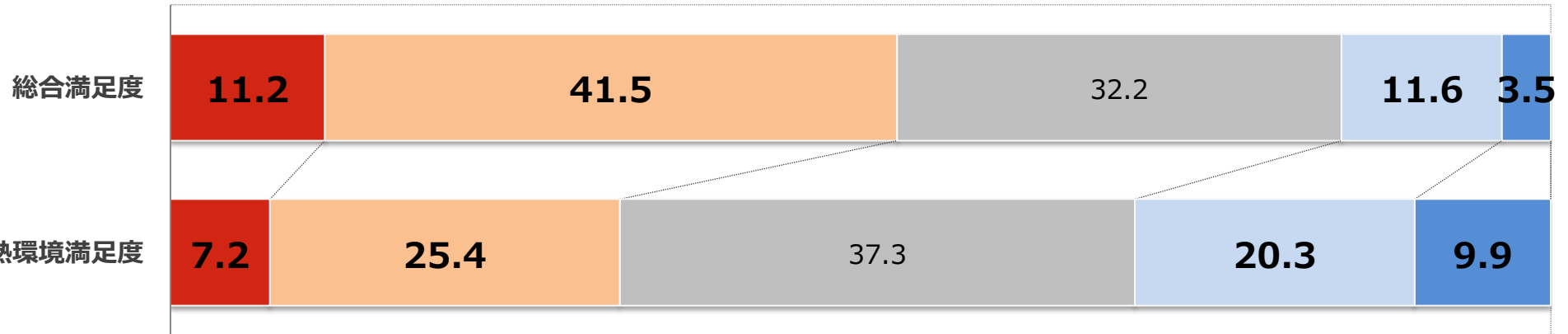
住まいの総合満足度／温熱環境満足度

住まいの総合的な満足度と温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度を比較すると、
温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度の方が低い。

住まいの総合的な満足度と年間を通じた家全体の温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度

■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満

数字は%



住まいの温熱環境満足度 季節別

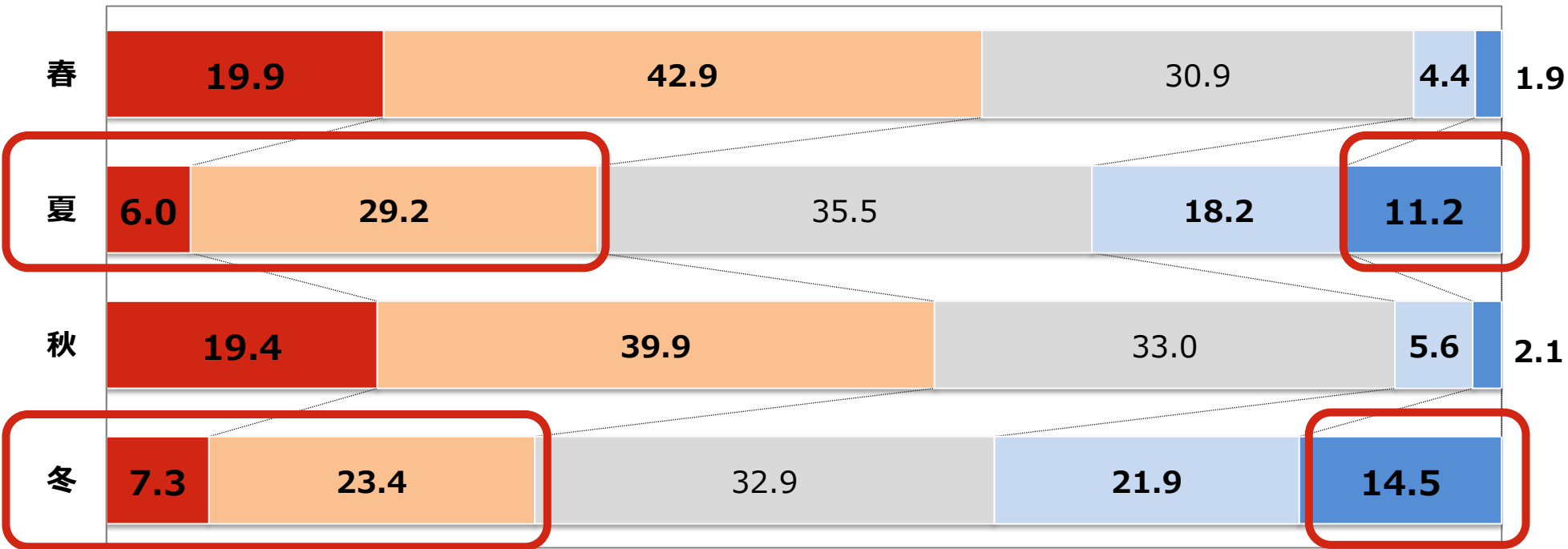
冬季調査

「夏」「冬」の温熱環境に対する満足度は「春」「秋」と比較して低く、「たいへん不満」も多い。

住まいの温熱環境(あたたかさ、涼しさ)に対する満足度

■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満

数字は%



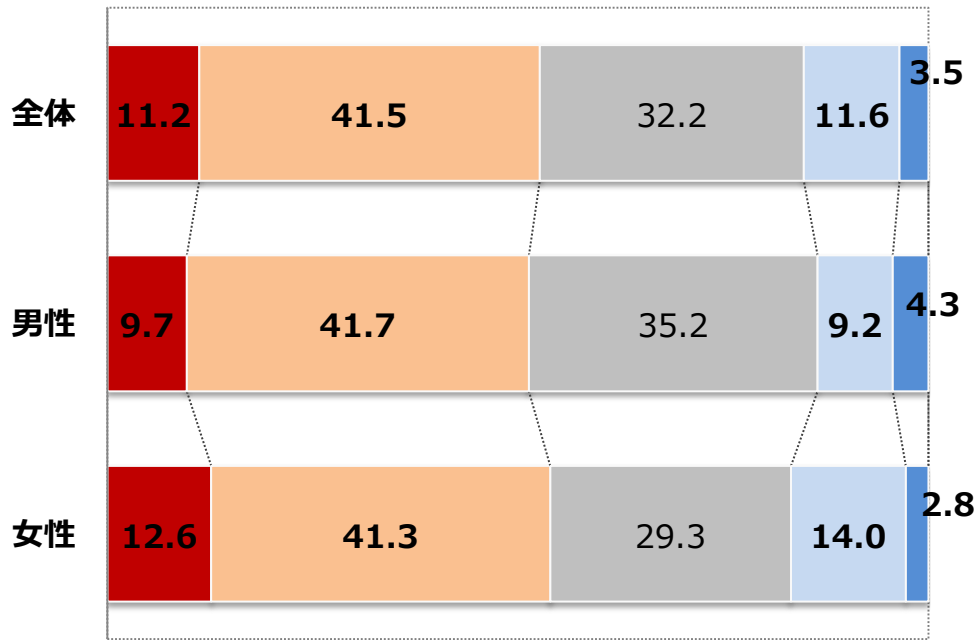
住まいの温熱環境満足度

住まいの総合満足度に対して、温熱環境の満足度は男女ともに低くなっている。
特に温熱環境に対しての女性の不満度は高く、1/3を超える。

住まいの総合満足度

■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満

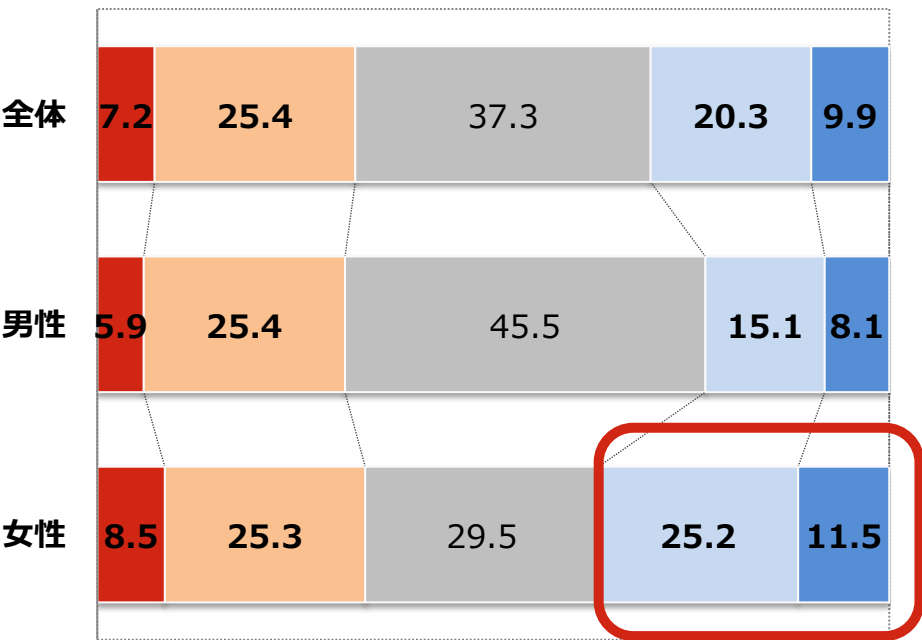
数字は%



年間を通じた家全体の温熱環境
(あたたかさ、涼しさ)の満足度

■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満

数字は%

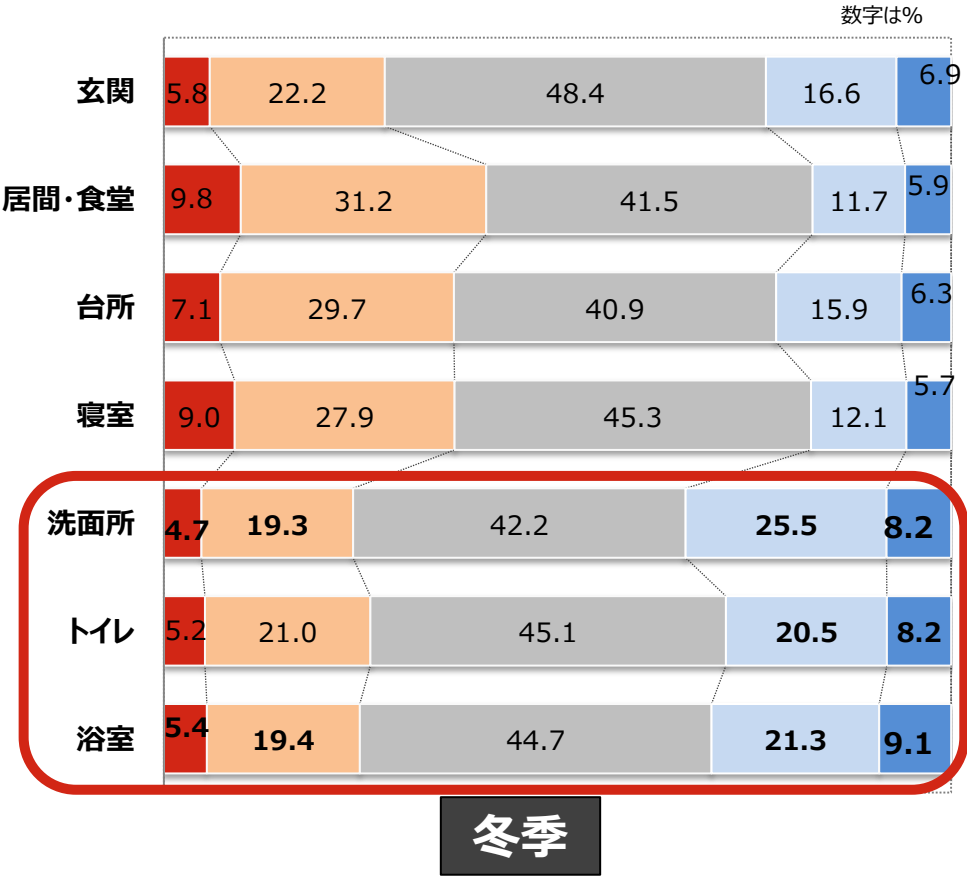
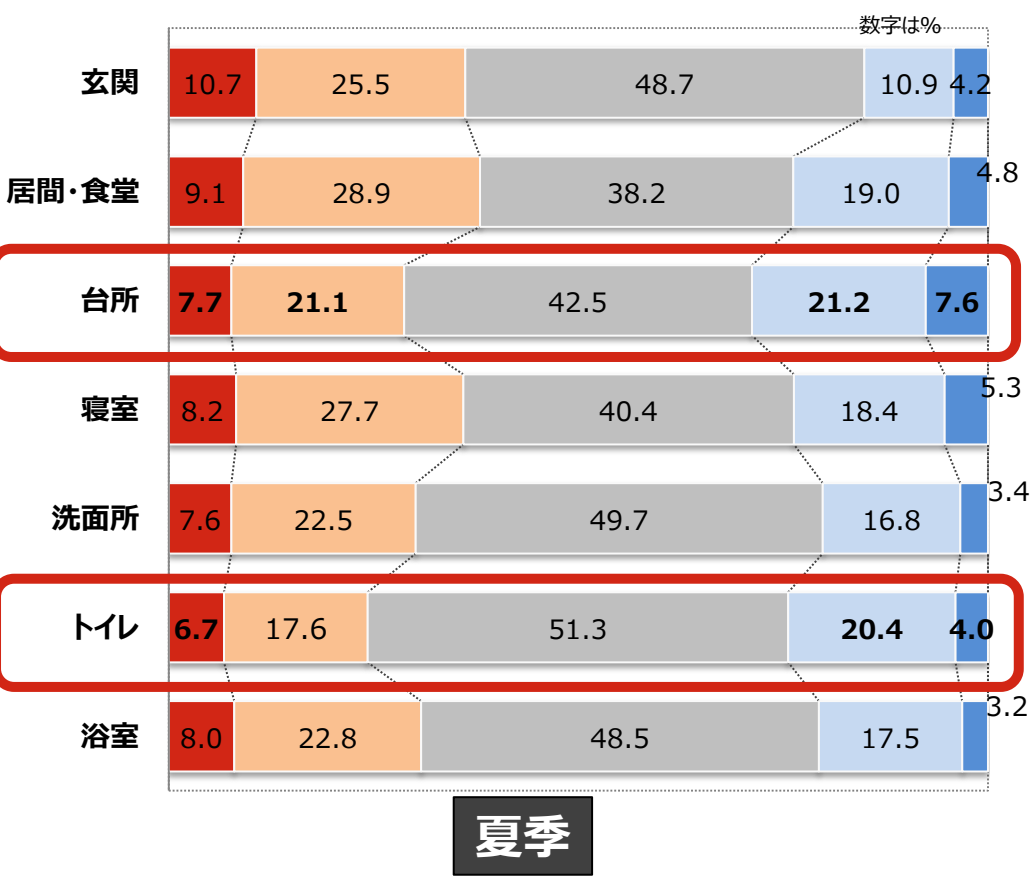


住まいの温熱環境満足度 部屋別 夏季・冬季

温熱環境の満足度を比較すると、夏は「台所」、「トイレ」の満足度が低く、不満度が高い。
冬は「洗面所」、「トイレ」、「浴室」の満足度が低く、不満度が高い。

住まいの温熱環境(あたたかさ、涼しさ)に対する満足度

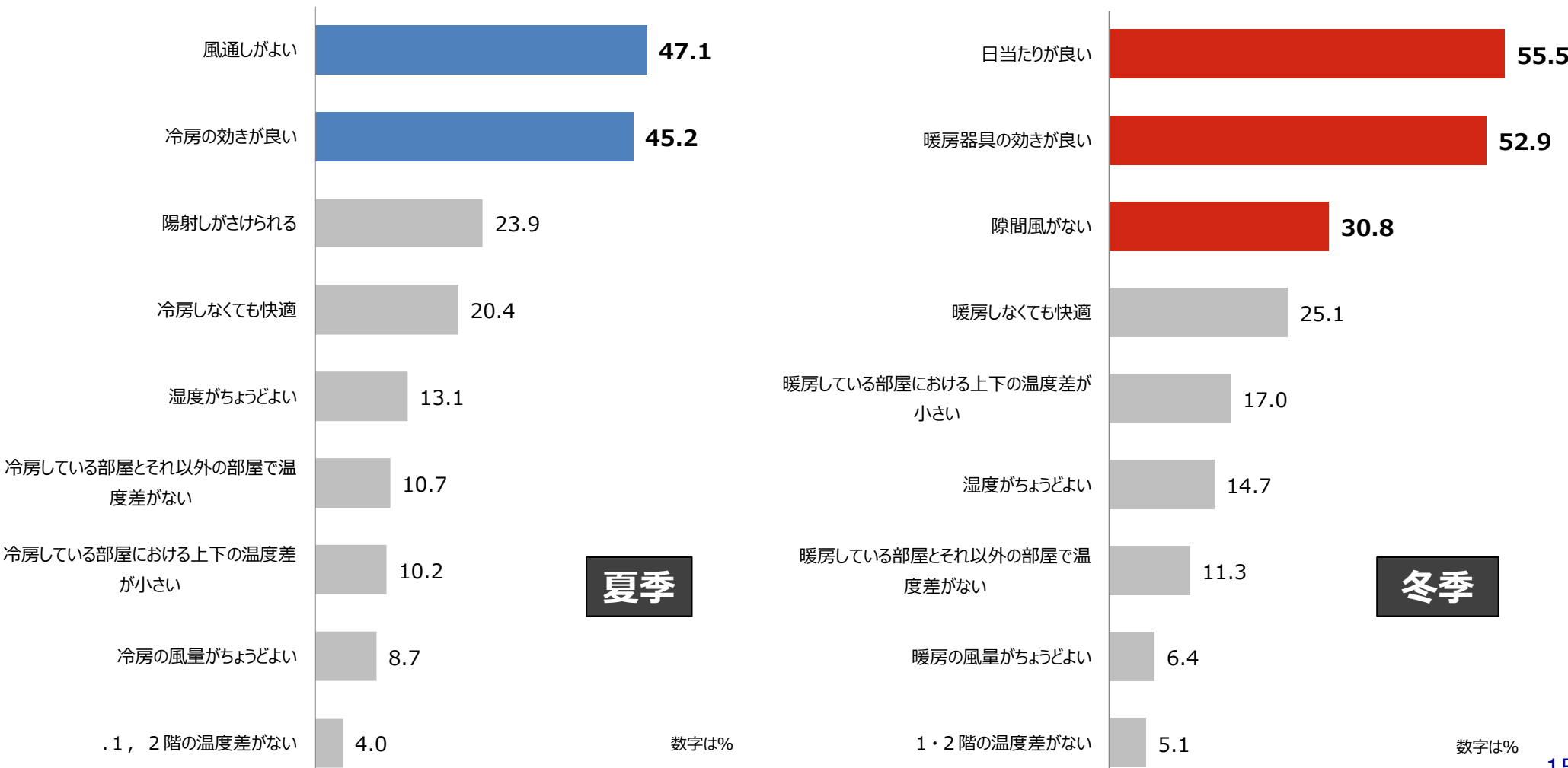
■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満



住まいの温熱環境 満足している人の満足の原因 夏季・冬季

夏は「風通しがよい」、冬は「日当たりが良い」がトップで、続いて夏・冬とも「冷暖房の効きが良い」が続く。

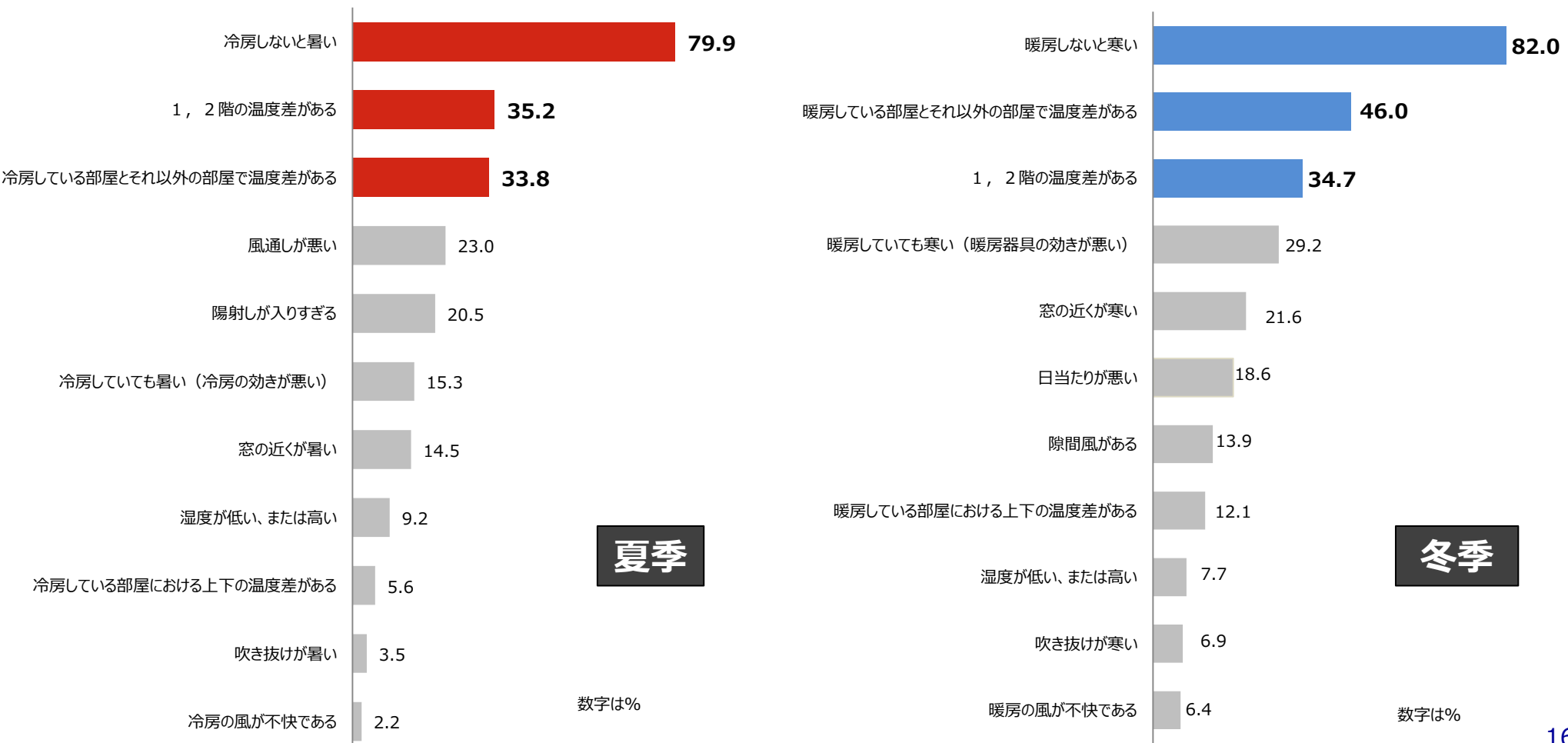
住まいの温熱環境 「たいへん満足」「やや満足」回答者その理由（複数回答）



住まいの温熱環境 不満の理由 夏季・冬季

夏・冬の温熱環境の不満点は、「暖房しないと寒い（冷房しないと暑い）」が高く、「冷暖房部屋との温度差」、「1・2階の温度差」が続く。

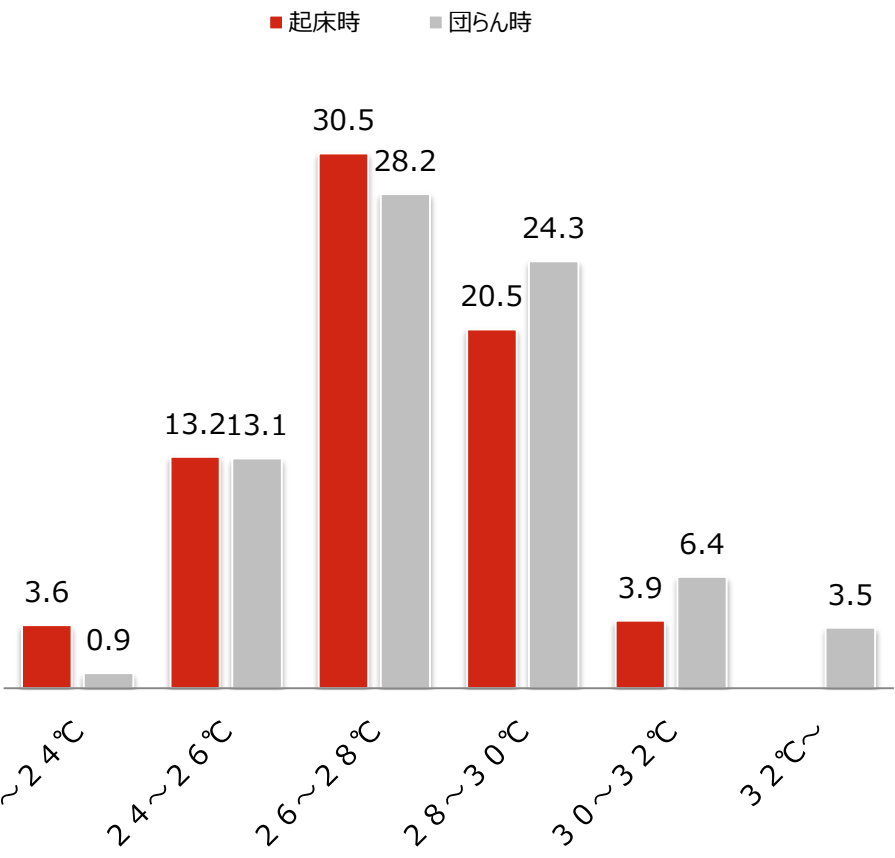
住まいの温熱環境 「たいへん不満」「やや不満」その理由 夏・冬（複数回答）



住まいの温熱環境 団らん時・起床時の居間・食堂の室温 夏季・冬季

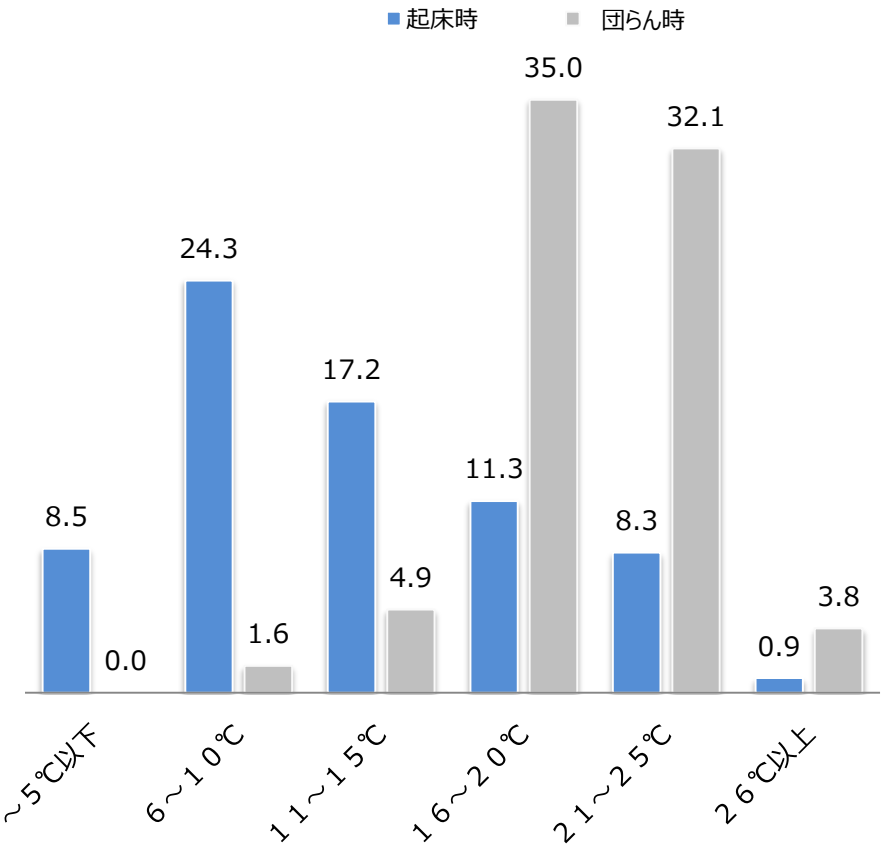
夏の夕食時で最も比率が高いのが「26～28℃」、起床時も「26～28℃」。冬の団らん時で最も比率が高いのが「16～20℃」、起床時は「6～10℃」であり、夏と比べて冬の方が温度差が大きい。

団らん時と起床時室温比率（居間・食堂）



夏季 (夏季調査) 数字は%

団らん時と起床時室温比率（居間・食堂）

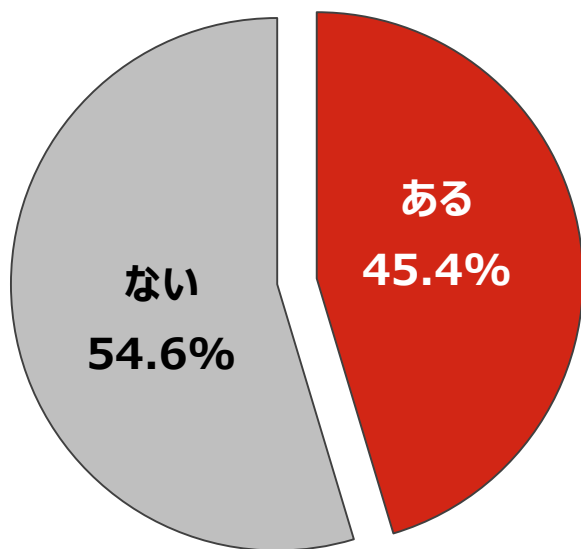


冬季 (冬季調査) 数字は%

暑くて（寒くて）使いたくない部屋・スペース 夏季・冬季

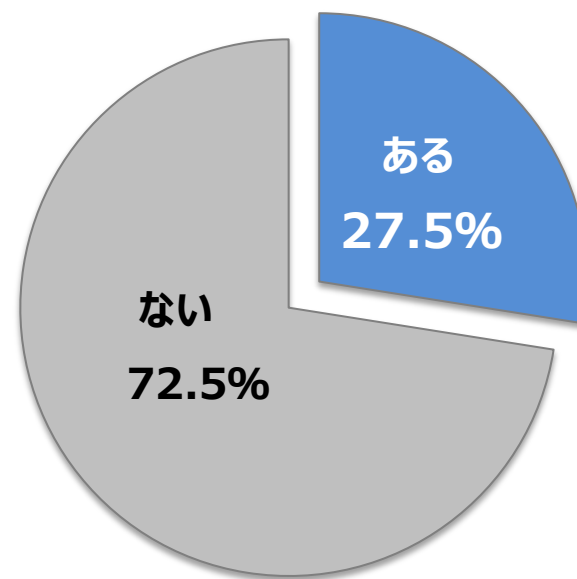
夏暑くて使いたくないスペースのある比率は45.4%で、冬寒くて使いたくないスペースがある比率27.5%を上回っている。

夏季において部屋が暑くて使えない、あるいは使いたくない部屋やスペースはありますか



夏季

冬季において部屋が寒くて使えない、あるいは使いたくない部屋やスペースはありますか

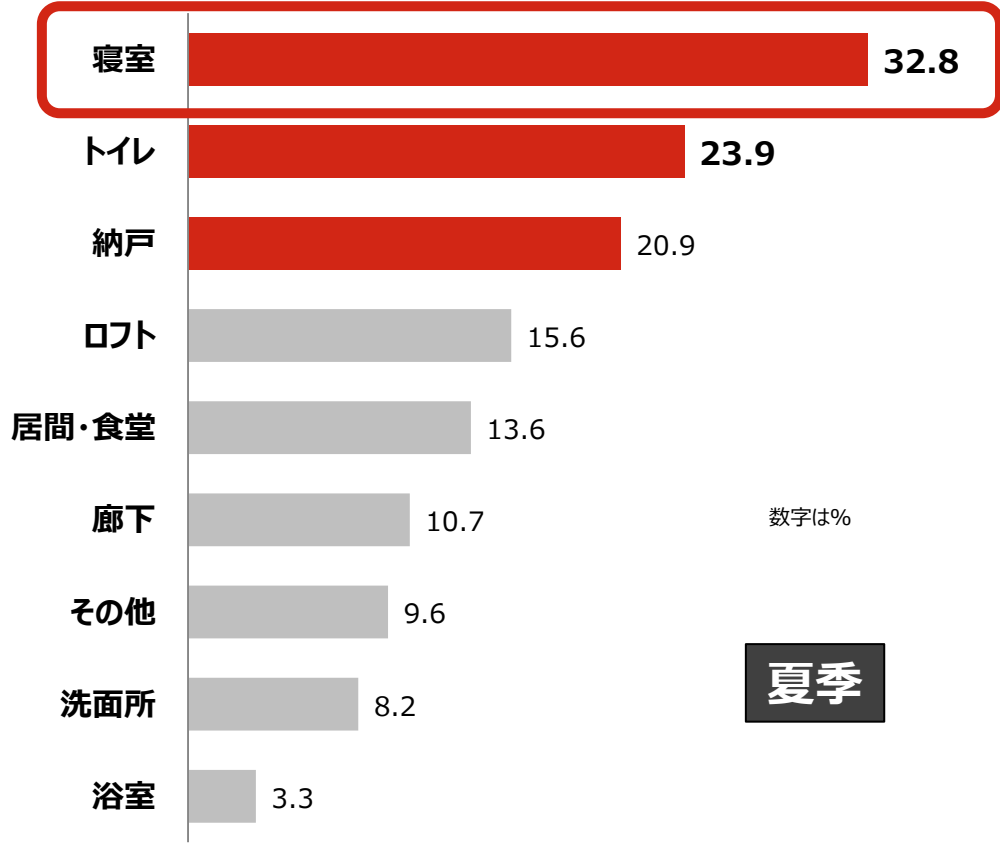


冬季

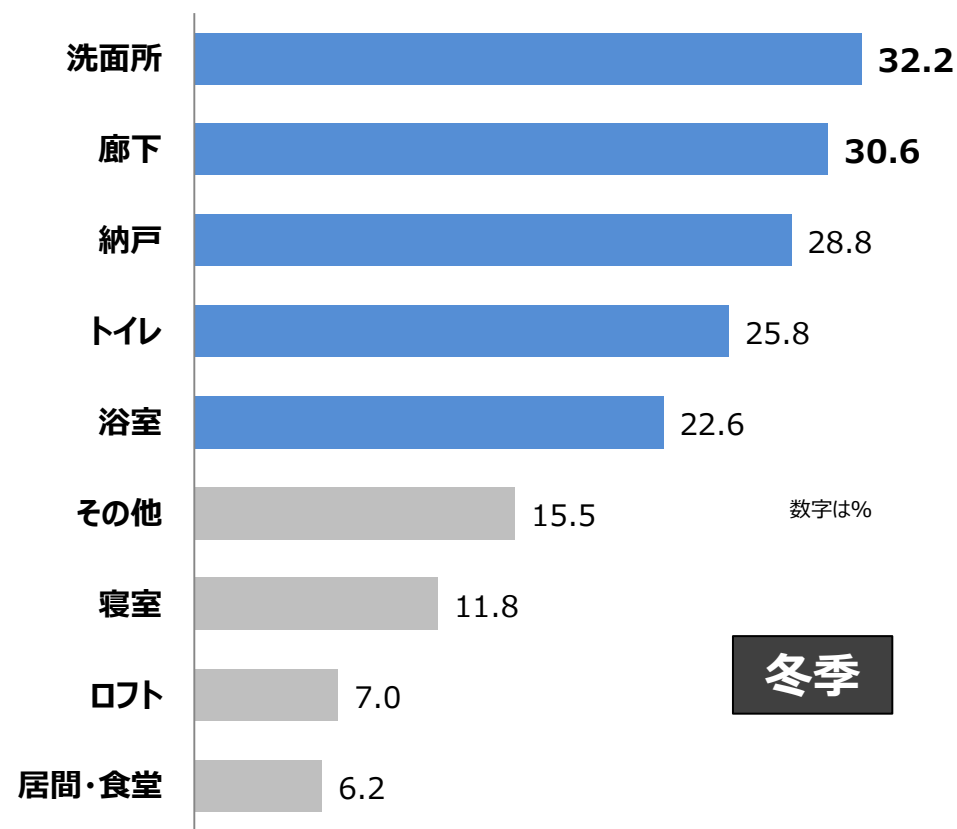
暑くて（寒くて）使いたくない部屋・スペース有無 夏季・冬季

夏暑くて使えない部屋・スペースは、「寝室」がもっとも高く、続いて「トイレ」、「納戸」。
冬は20%以上の部屋・スペースが多く、「洗面所」、「廊下」、「納戸」、「トイレ」、「浴室」の順となっている。

夏季において部屋が暑くて使えない、あるいは使いたくない部屋やスペース（複数回答）



冬季において部屋が寒くて使えない、あるいは使いたくない部屋やスペース（複数回答）



基本データ編まとめ

- 住まいの住宅の総合的な満足度と比較して、温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度の方が20%低く、女性の不満度が高い。
- 「夏」、「冬」の温熱環境の満足度は「春」、「秋」と比較して低く、不満度も高い。夏季の満足度が低い場所は「台所」、「トイレ」、冬季は「洗面所」、「浴室」、「トイレ」。
- 夏季に温熱環境に満足している人の満足理由は「風通しがよい」、冬季は「日当たりが良い」がトップで、続いて夏季・冬季とも「冷暖房の効きがよい」。一方、夏・冬の温熱環境の不満理由は、「暖房しないと寒い・冷房しないと暑い」が高く、「冷暖房部屋との温度差」、「1・2階の温度差」が続く。
- 夏季の団らん時の居間・食堂の室温で最も比率が高いのが「26～28℃」、起床時も「26～28℃」冬季の団らん時で最も比率が高いのが「16～20℃」、起床時は「6～10℃」である。
- 夏季暑くて使いたくないスペースのある比率は45.4%で、冬季に寒くて使いたくないスペースがある比率27.5%を上回る。
- 夏季暑くて使えない部屋・スペースは、「寝室」がもっとも比率が高く、続いて「トイレ」、「納戸」の順。冬季は「洗面所」、「廊下」、「納戸」の順。

2. 地域別データ編

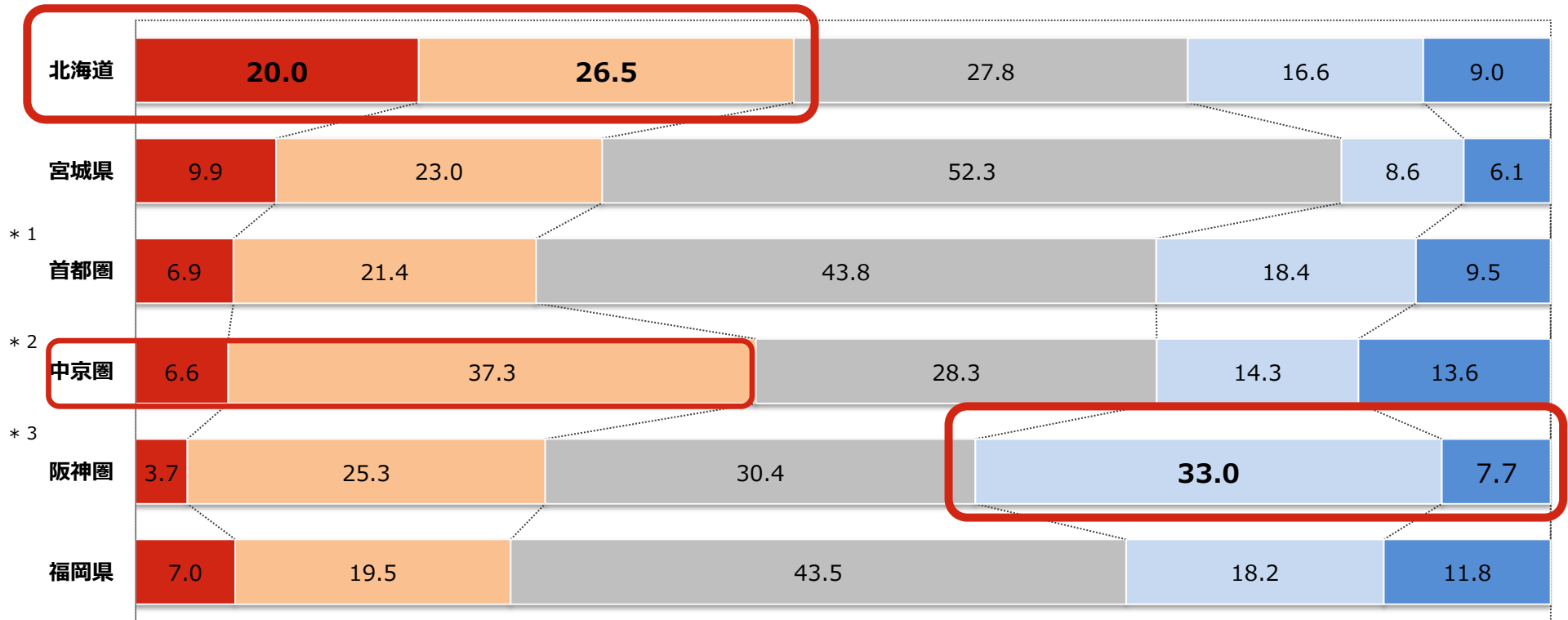
住まいの温熱環境満足度 地域別 年間

「温熱環境の満足度」は北海道、中京圏が高く、特に、北海道の「たいへん満足」は20%で他地域と比べて10%以上高い。一方、「たいへん不満」、「やや不満」合わせた不満度は阪神圏が最も高い。

年間を通した家全体の温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度

■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満

数字は%



* 1 首都圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

* 2 中京圏：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

* 3 阪神圏：京都府、大阪府、兵庫県、奈良県

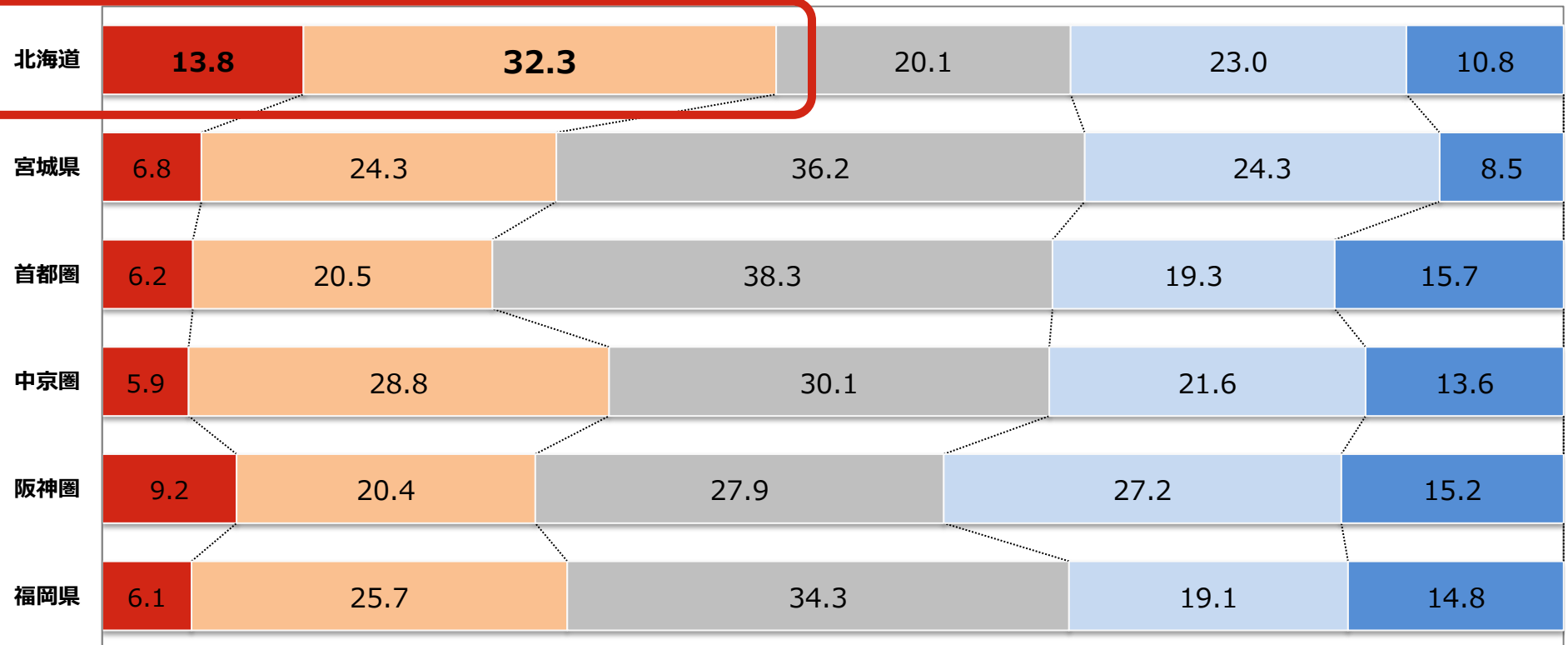
住まいの温熱環境満足度 地域別 冬季

冬季の北海道の温熱環境の満足度が他エリアと比較して高い。

冬季 住まいの温熱環境(あたたかさ、涼しさ)に対する満足度

■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満

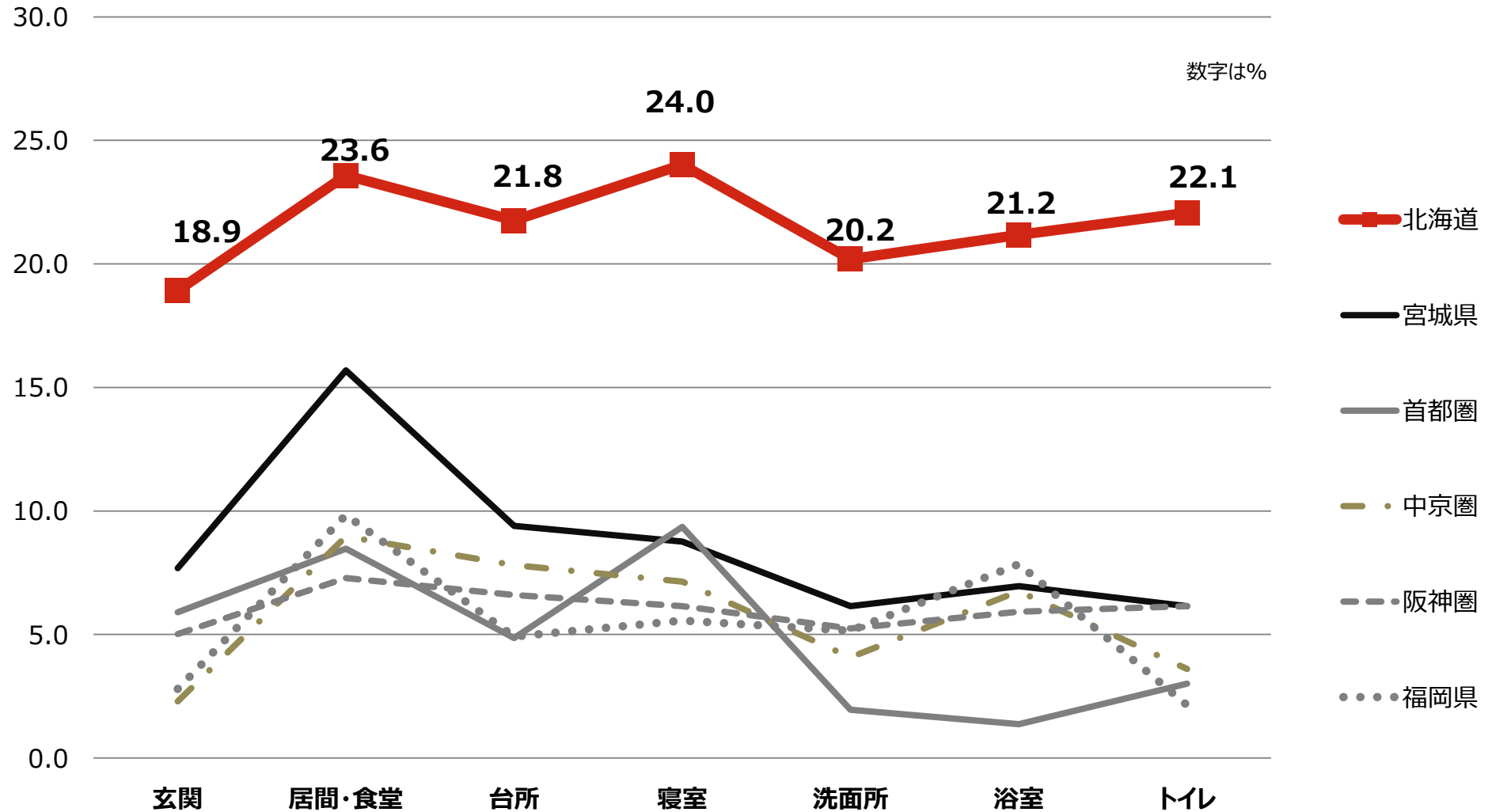
数字は%



住まいの温熱環境満足度 地域別 部屋別 冬季

冬季 住まいの温熱環境(あたたかさ、涼しさ)に対する満足度 (たいへん満足)

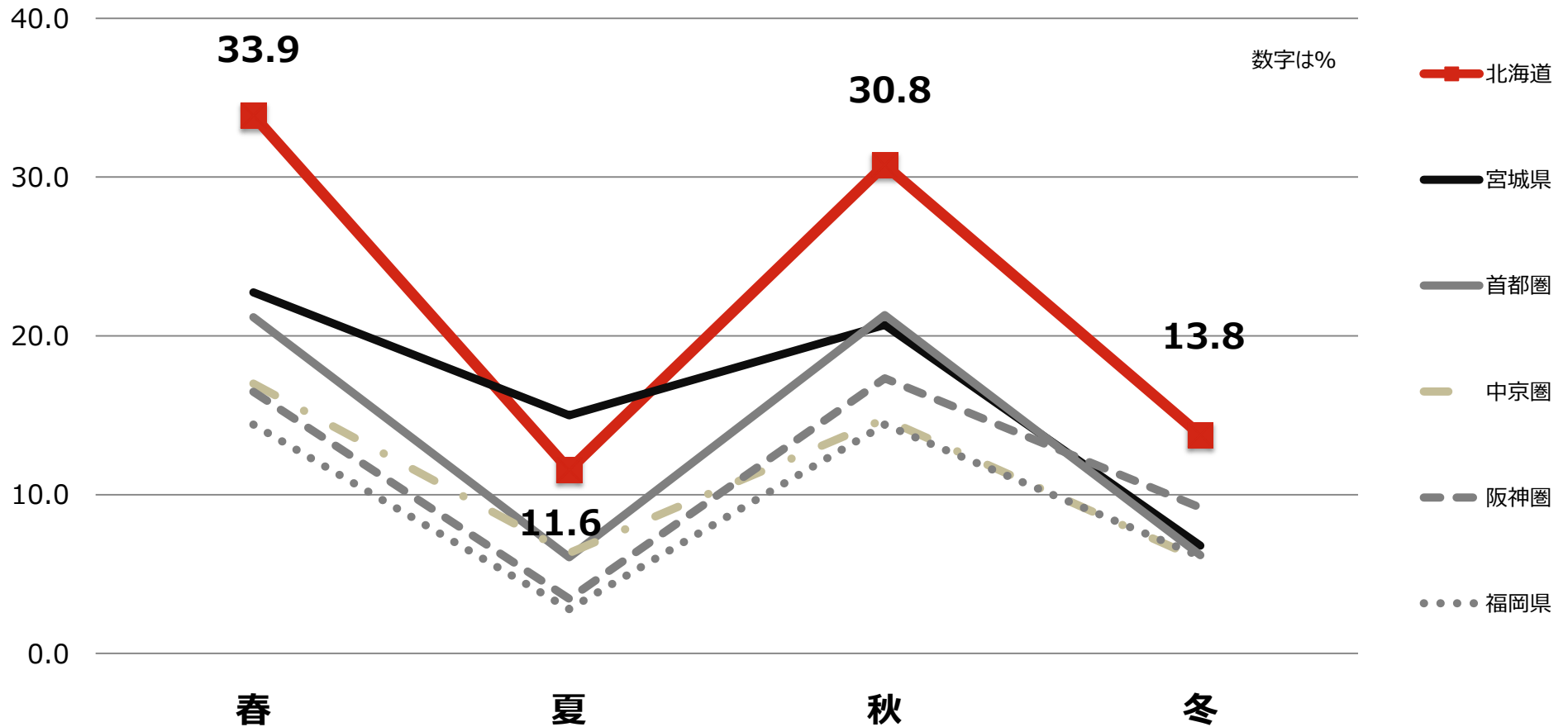
北海道の各部屋の温熱環境の満足度が他エリアと比較して高い。



住まいの温熱環境満足度 地域別 季節別

北海道は夏を除いて、他の地域より「たいへん満足」の比率が高い。

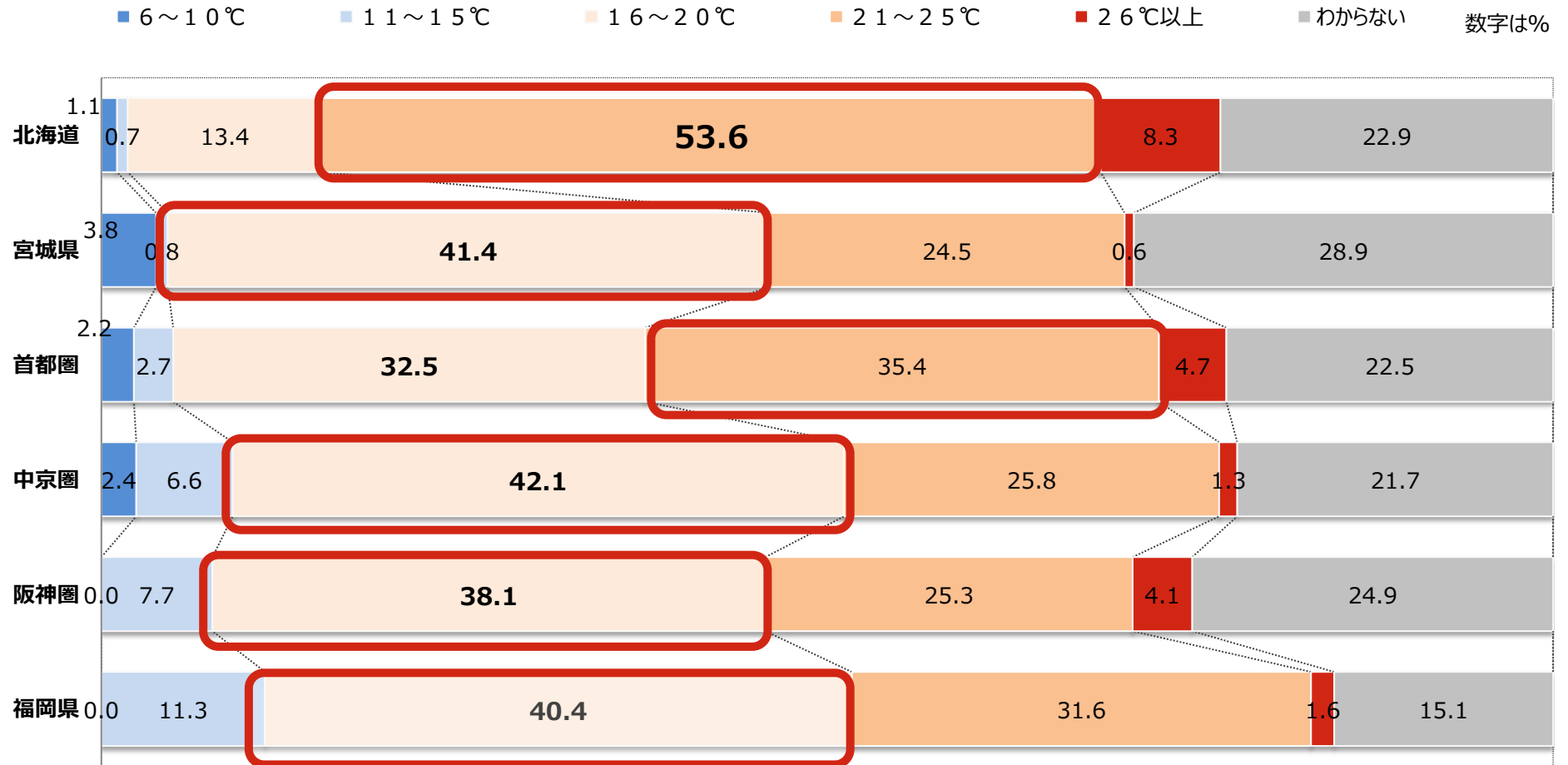
住まいの温熱環境(あたたかさ、涼しさ)に対する満足度 (たいへん満足)



住まいの温熱環境 団らん時の居間・食堂の室温 地域別 冬季

北海道では、団らん時の室温「21～25℃」の比率が50%を超え、他の地域と比較して高く、宮城県、中京圏、阪神圏、福岡県は「16～20℃」の比率が高い。

冬季 団らん時の居間・食堂の室温



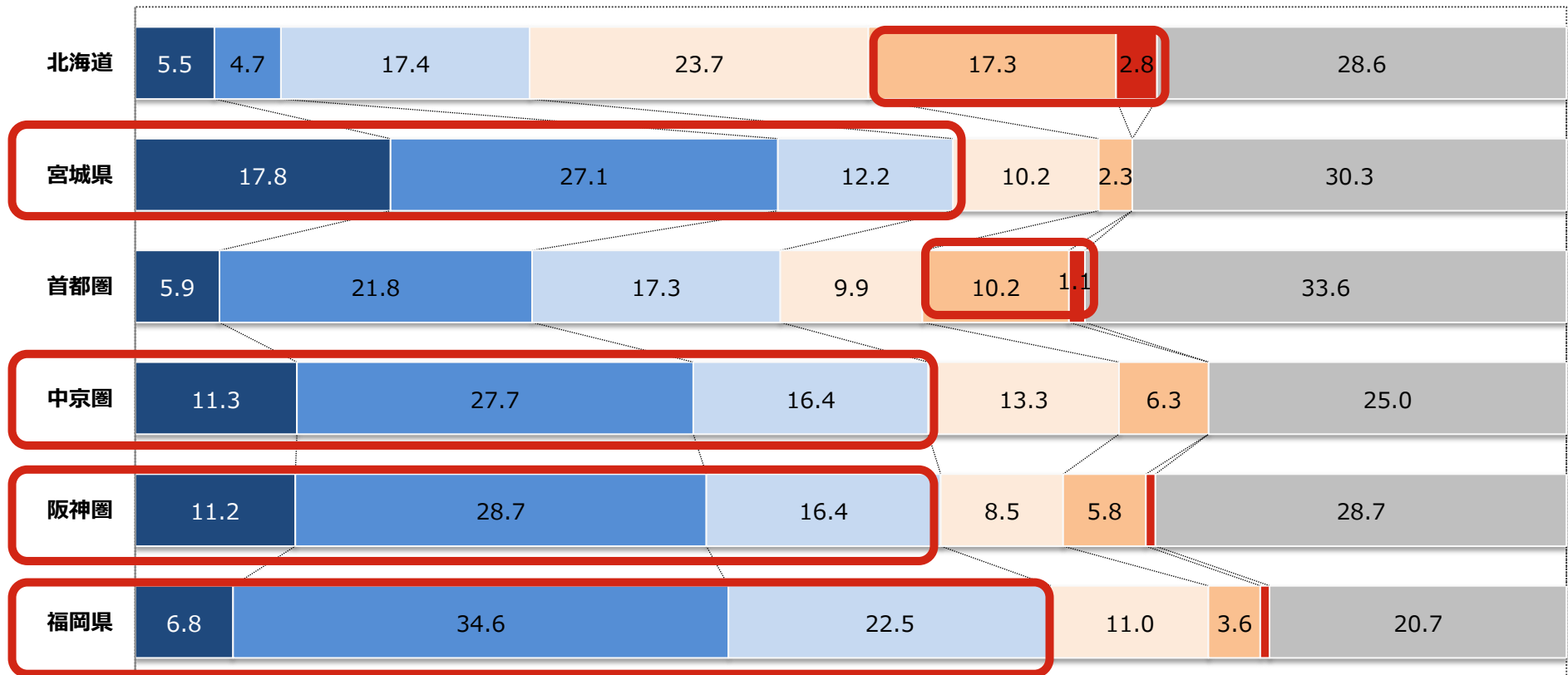
住まいの温熱環境 起床時の居間・食堂の室温 地域別 冬季

宮城県、中京・阪神圏、福岡県では冬の起床時の居間・食堂の室温「15℃以下」の比率が50%を超える。一方、北海道では、21℃以上の割合が20%を超える。

冬季 起床時の居間・食堂の室温

■ ～5℃以下 ■ 6～10℃ ■ 11～15℃ ■ 16～20℃ ■ 21～25℃ ■ 26℃以上 ■ わからない

数字は%

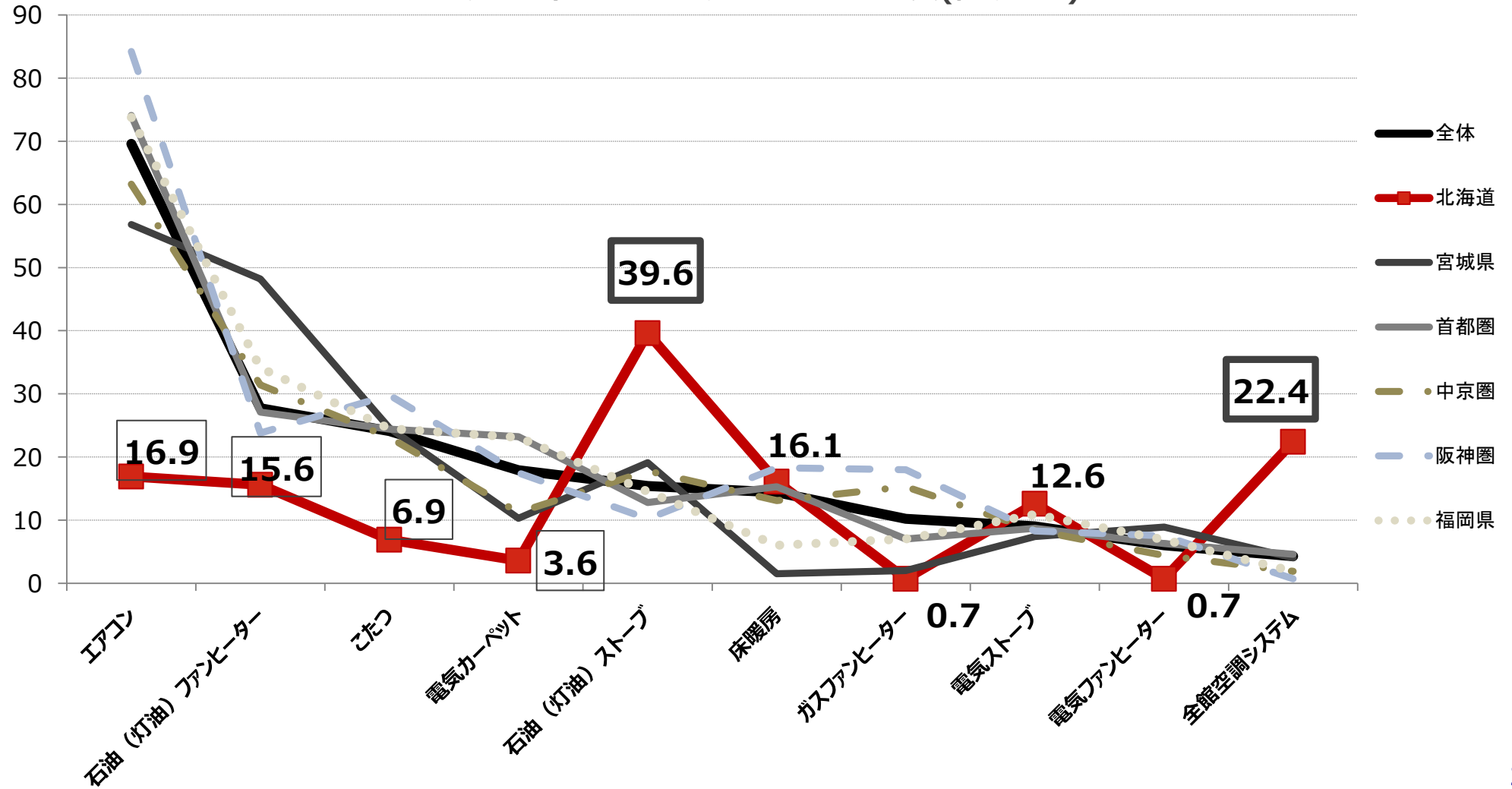


居間・食堂で使用している空調器具 地域別 冬季

居間・食堂の暖房器具は「エアコン」がメイン。北海道は「石油ストーブ」、「全館空調」の比率が高く、「エアコン」、「石油ファンヒーター」、「こたつ」、「電気カーペット」が少ない。

数字は%

冬季 居間・食堂で使用している空調器具(複数回答)

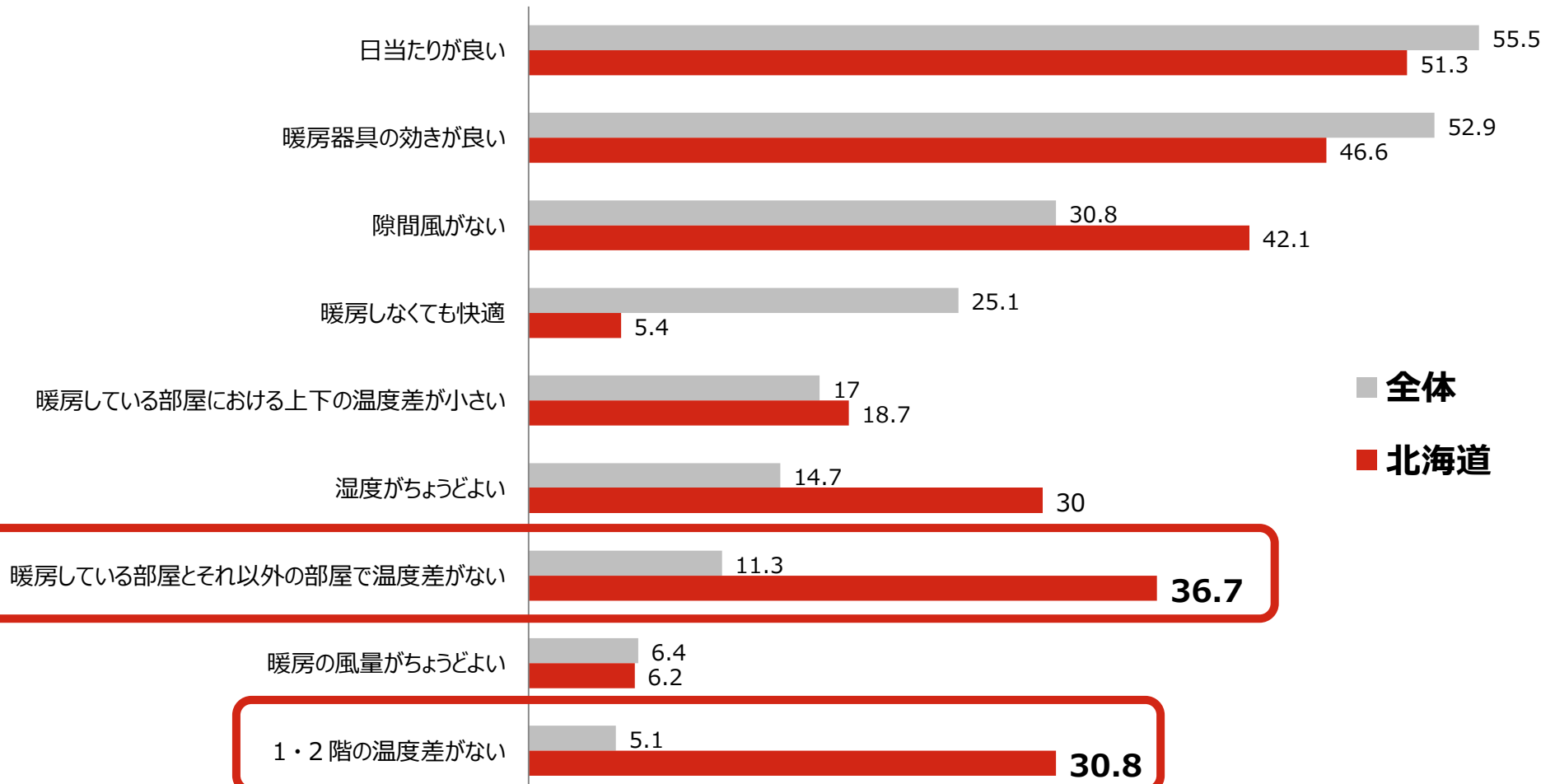


住まいの温熱環境満足者の満足理由 全国・北海道 冬季

住まいの温熱環境満足者の満足理由として、全体と北海道との差が大きいのは「暖房している部屋とそれ以外の部屋で温度差がない」、「1・2階の温度差がない」で、他地域と比較して25%以上多い。

冬季 住まいの温熱環境の「たいへん満足」「やや満足」回答者のその理由（複数回答）

数字は%



地域別データ編まとめ

- 年間を通じての温熱環境の満足度は北海道が高く、特に、「たいへん満足」は20%で他地域と比べて10%以上高い。一方、「たいへん不満」、「やや不満」を合わせた不満度は阪神圏が最も高かった。
- 冬季の北海道の温熱環境の満足度が他エリアと比較して高く50%を超えている。
- 北海道の各部屋の温熱環境の満足度が他エリアと比較して高く、季節別に見ても、夏を除いて北海道の「たいへん満足」の比率が高い。
- 冬季、北海道では、団らん時の室温「21～25℃」の比率が50%を超え、他の地域と比較して高い。宮城県、中京圏、阪神圏、福岡県は「16～20℃」の比率が高い。
- 宮城県、中京・阪神圏、福岡県では冬の起床時の居間・食堂の室温「15℃以下」の比率が50%を超える。一方、北海道では、21℃以上の割合が20%を超える。
- 北海道は「石油ストーブ」、「全館空調」の比率が高く、「エアコン」、「石油ファンヒーター」、「こたつ」が少ない。冬季、北海道では「暖房している部屋とそれ以外の部屋で温度差がない」「1・2階の温度差がない」を満足理由に挙げた人が多く、他地域と質が異なる。

3. 室温別データ編*

*居間・食堂の起床時の室温（冬季）

■ クラスA : 21℃以上

■ クラスB : 16℃～20℃

■ クラスC : 11℃～15℃

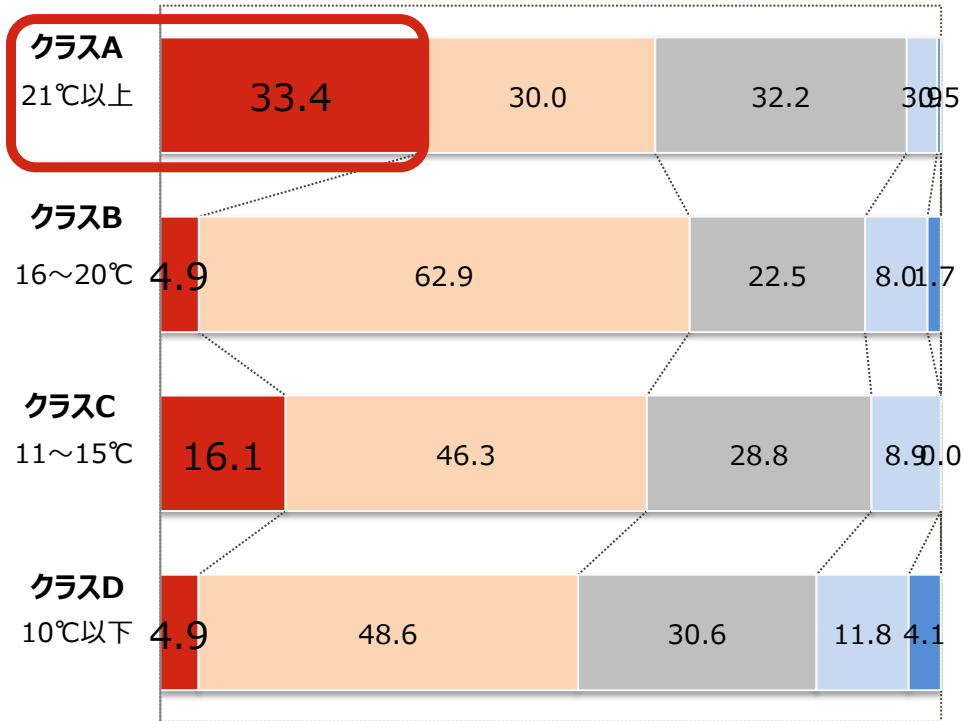
■ クラスD : 10℃以下

住まいの温熱環境満足度 室温別

住まいの総合満足度・住まいの温熱環境の満足度においては、クラスAの住まいの「たいへん満足」の比率がもっとも高い。

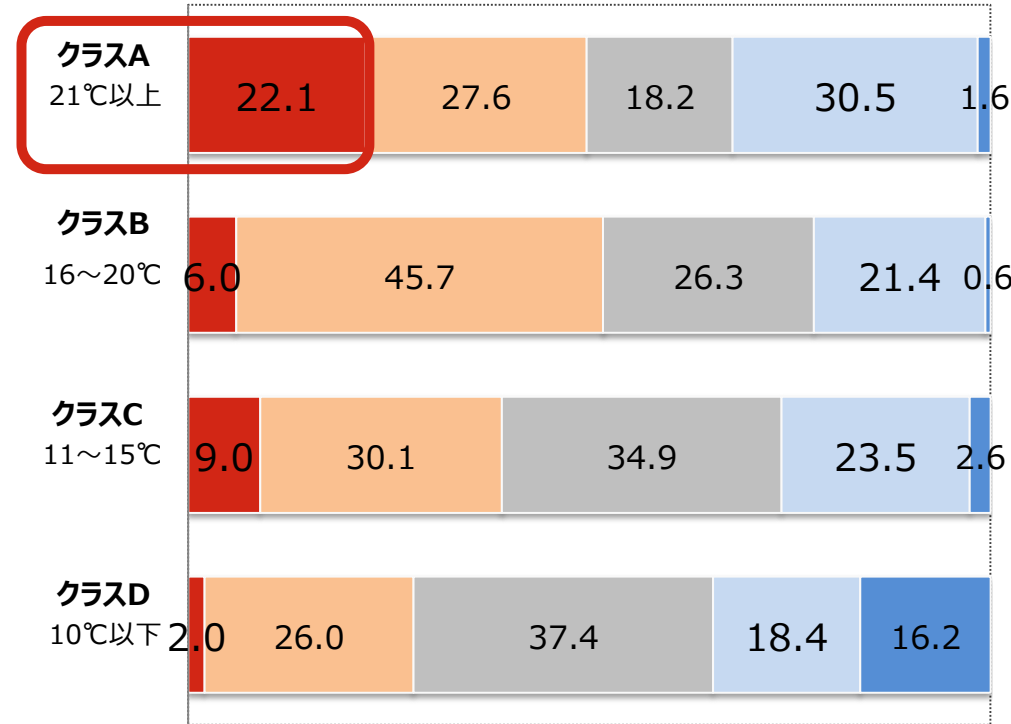
住まいの総合満足度

■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満



年間を通した家全体の温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度

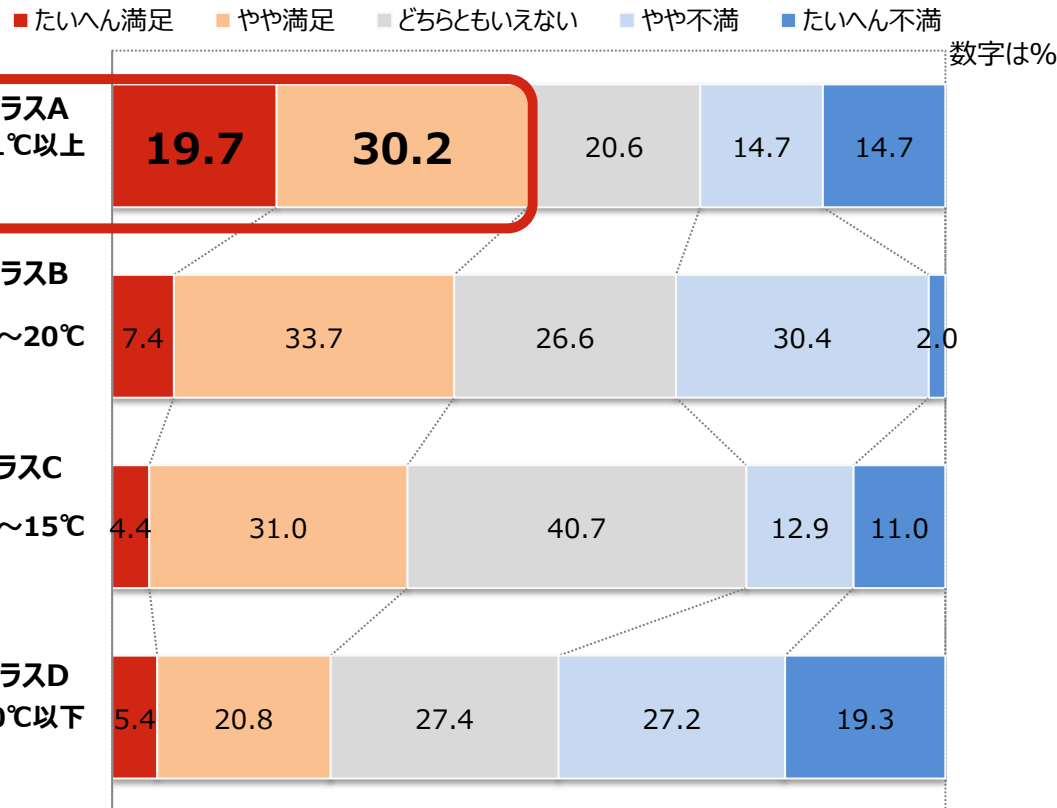
■ たいへん満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ たいへん不満



住まいの温熱環境満足度 室温別 冬季

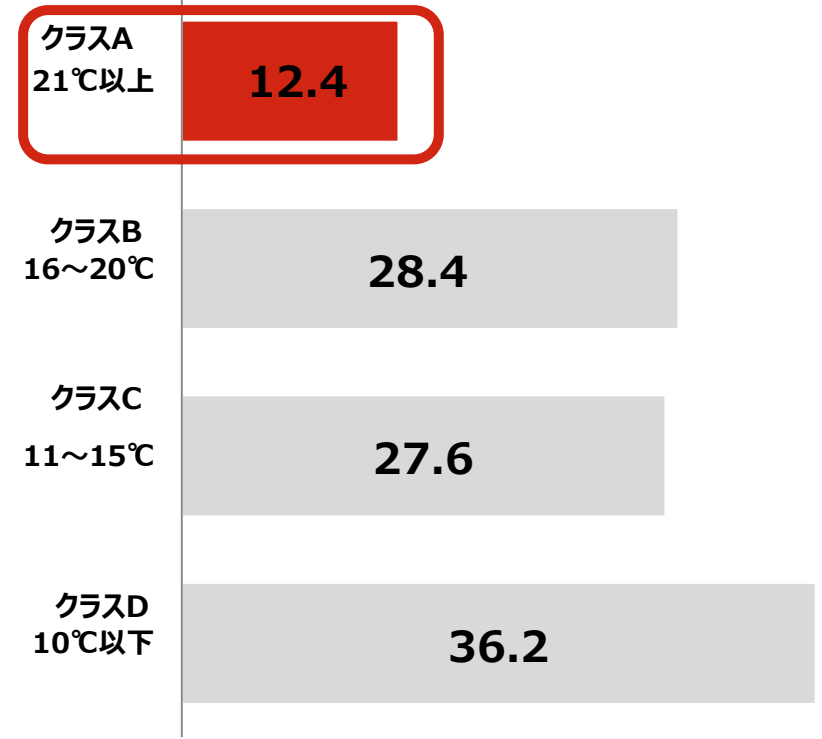
冬季の温熱環境の満足度においては、クラスA(居間・食堂の起床時室温が21℃以上)の住まいの満足度が最も高く、「部屋が寒くて使えない、あるいは使いたくない部屋やスペースがある」としている比率が低い。

冬季の住まいの温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度



部屋が寒くて使えない、あるいは使いたくない部屋やスペースはありますか

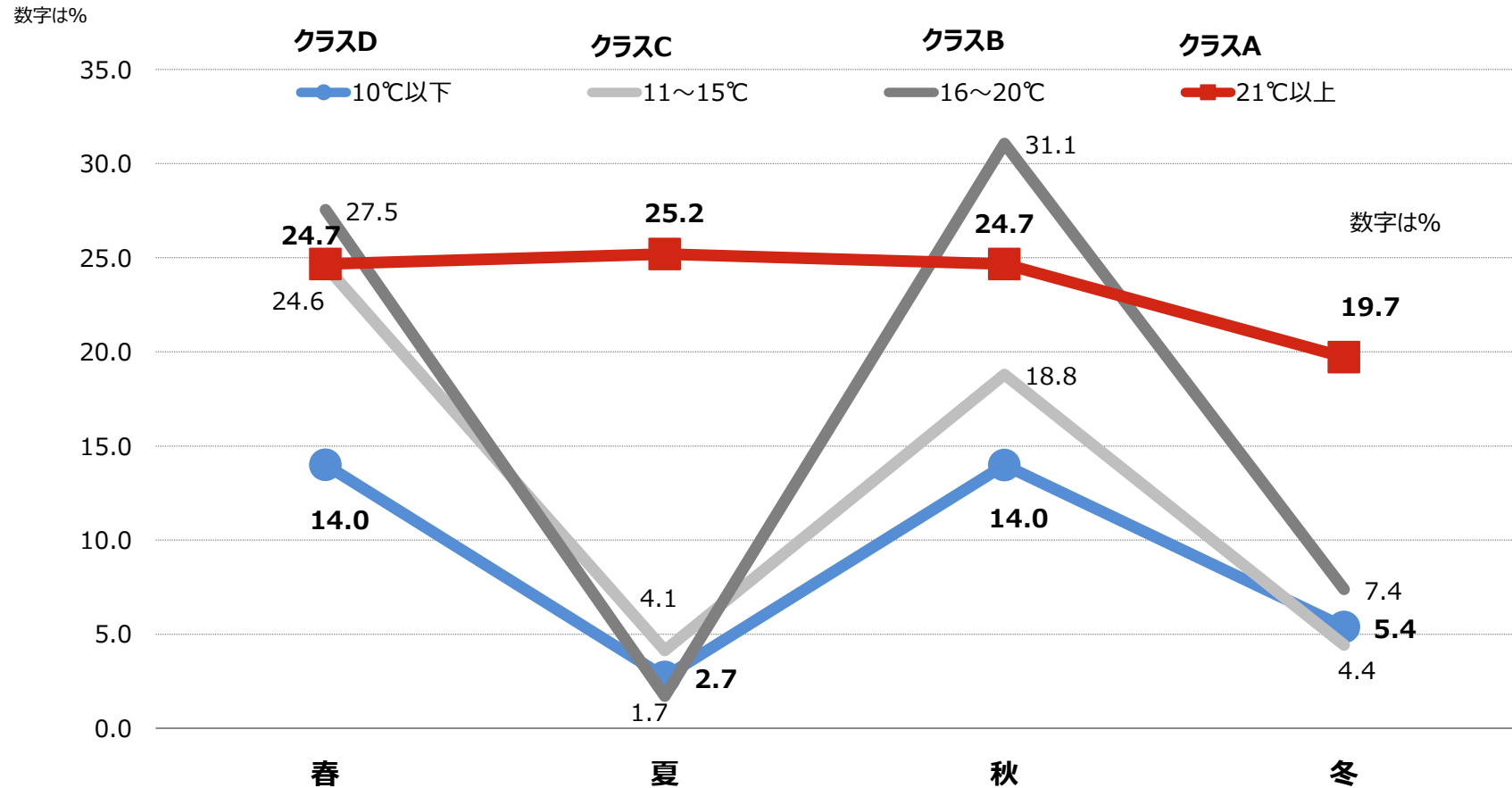
数字は%



住まいの温熱環境満足度 室温別 季節別

クラスA(居間・食堂の起床時の室温が21℃以上)の住まいでは、夏・冬の満足度が高い。

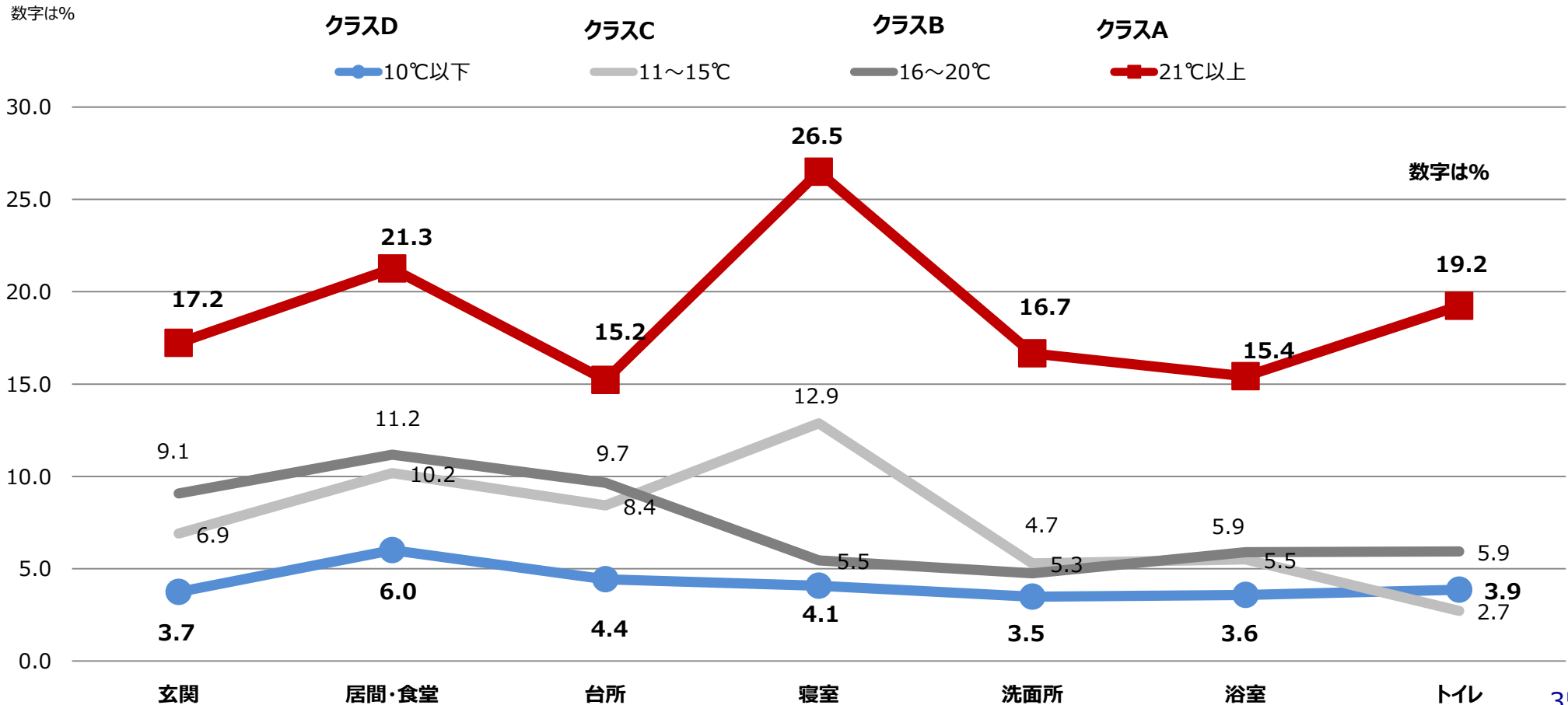
温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度



住まいの温熱環境満足度 室温別 部屋別 冬季

住まいの温熱環境の満足度において各部屋でクラスAの「たいへん満足」が最も高く、クラスDの「たいへん満足」が最も低い（トイレを除く）。

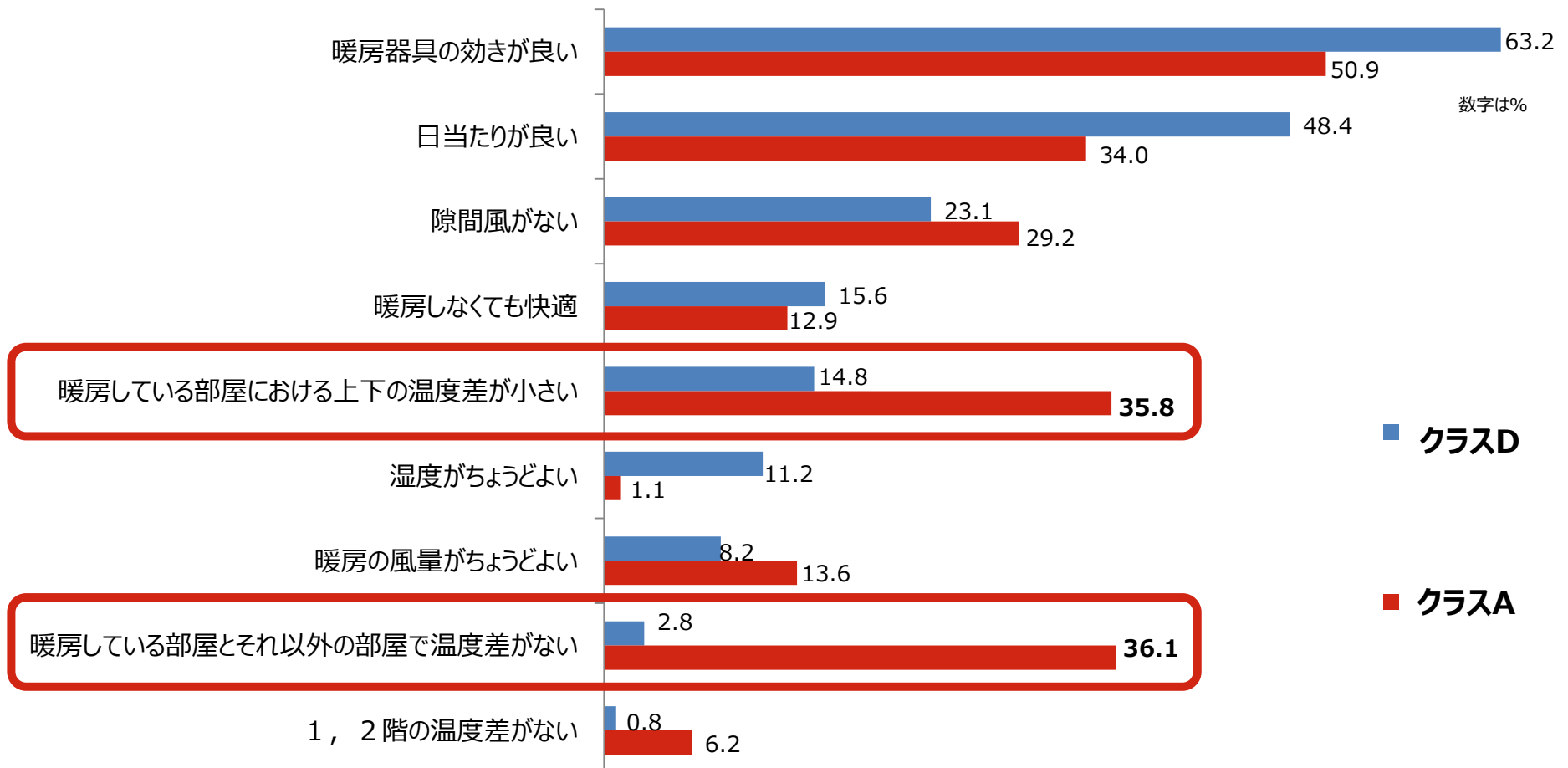
冬季 温熱環境(あたたかさ、涼しさ)の満足度（たいへん満足）



住まいの温熱環境満足度 満足点 室温別 冬季

クラスAの住まいは「暖房している部屋とそれ以外の部屋で温度差がない」、「暖房している部屋における上下の温度差が小さい」がクラスDの住まいと比較して高い。

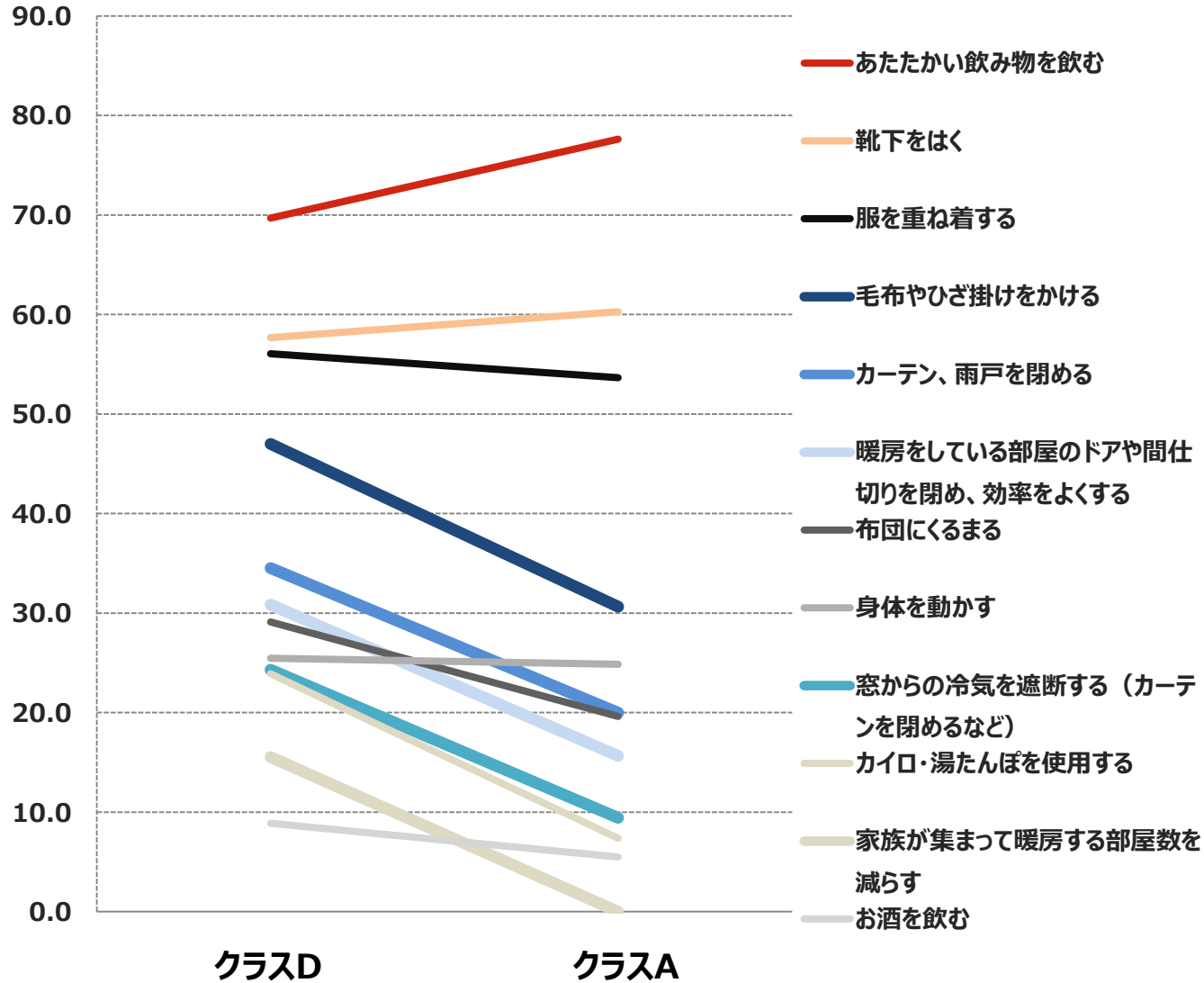
冬季 住まいの温熱環境満足点(複数回答)



部屋が寒いと感じた時の行動 室温別 冬季

冬季 日常生活において部屋が寒いと感じた時の行動（複数回答）

数字は%

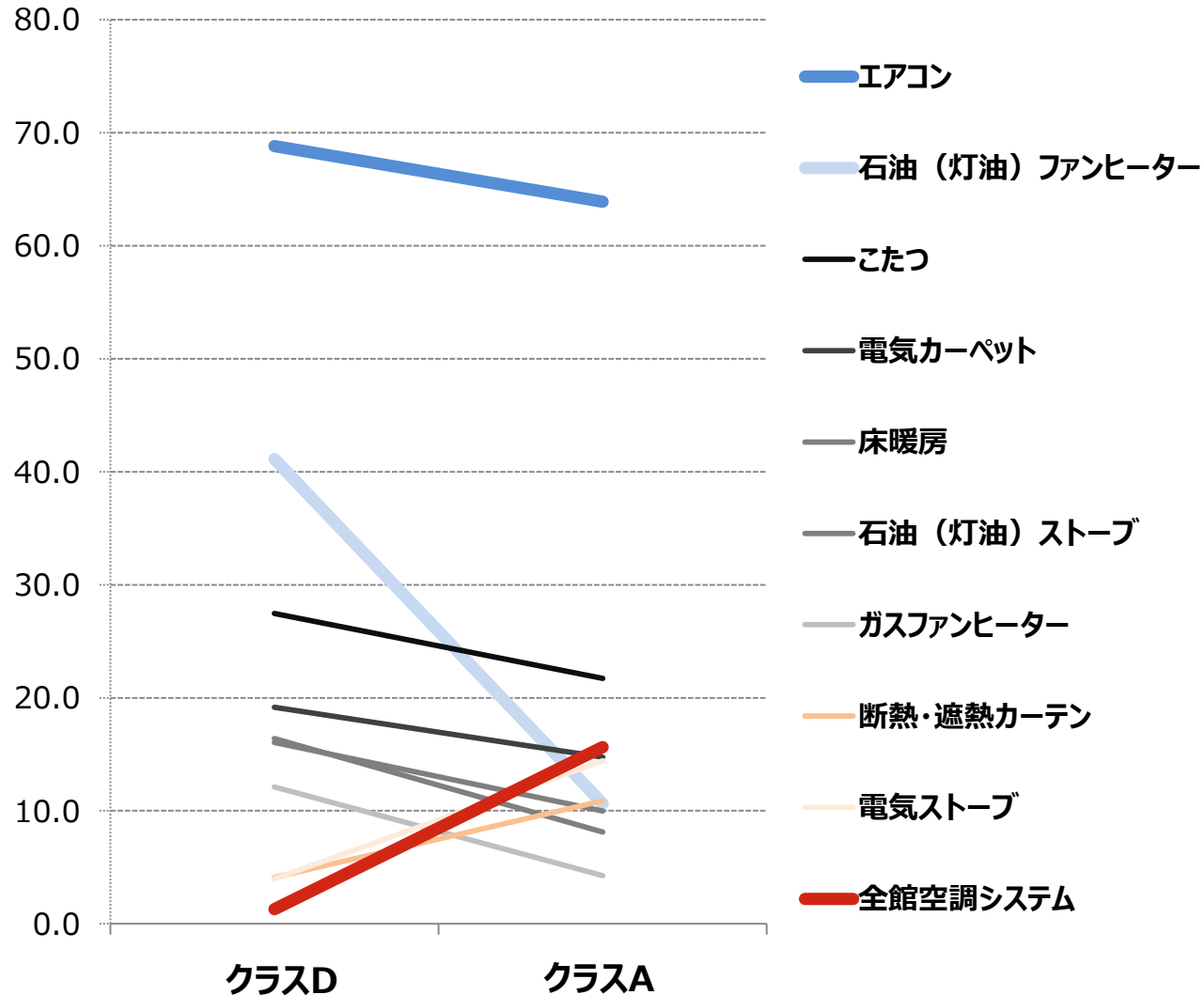


クラスAの住まいでは、「毛布やひざ掛けをかける」、「カーテン・雨戸を閉める」、「暖房をしている部屋のドアや間仕切りを閉める」、「窓からの冷気を遮断する」などの行動がクラスDの住まいと比べて少ない。

居間・食堂にある暖房器具 室温別 冬季

冬季 居間・食堂にある暖房器具（複数回答）

数字は%



クラスAの住まいではクラスD の住まいと比較して居間・食堂にある暖房器具が少ない。

クラスDの住まいでは、居間・食堂に石油（灯油）ファンヒーターの比率が高く、クラスAは、全館空調の比率が高い。

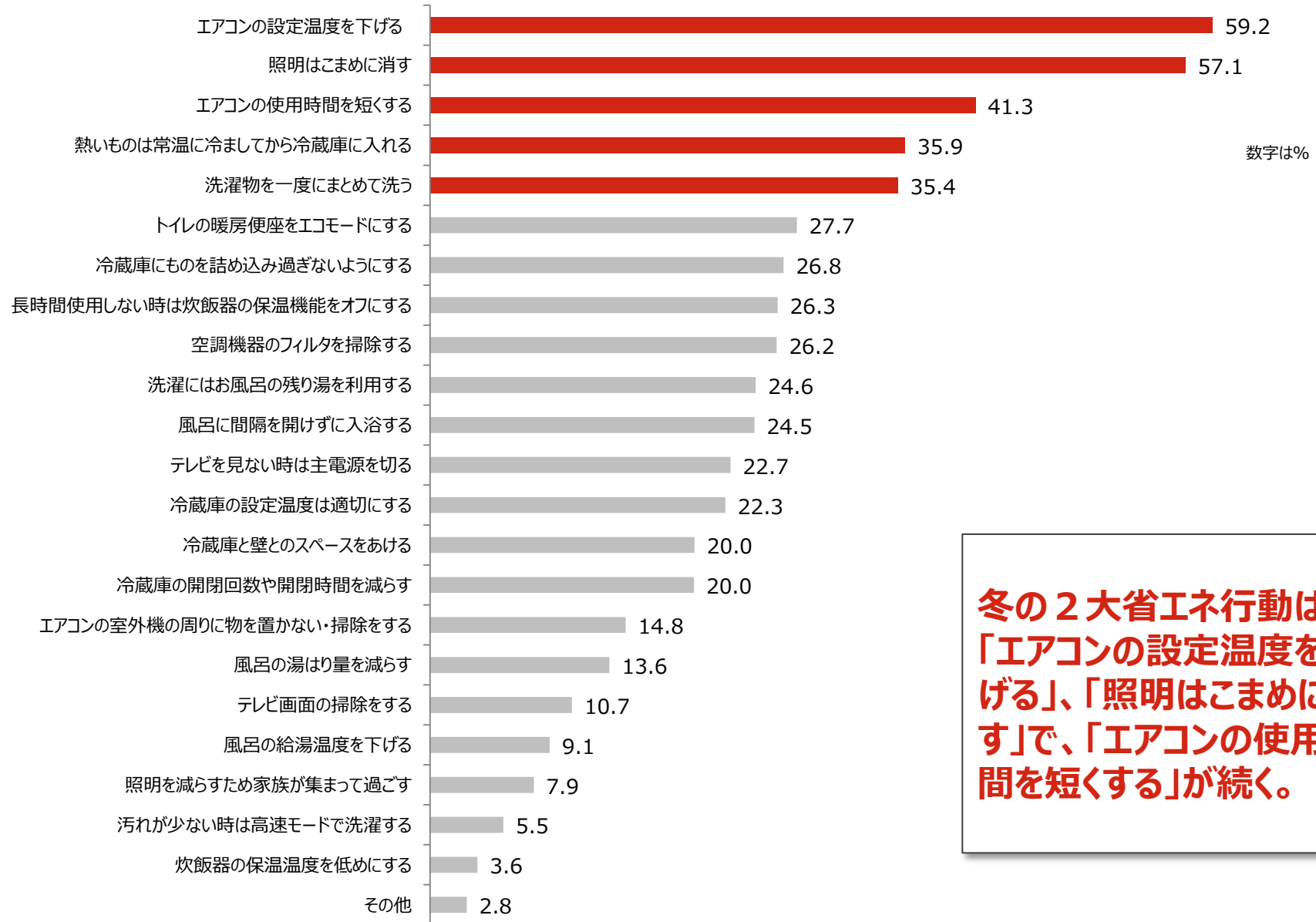
室温別データまとめ

- 住まい総合満足度・住まいの温熱環境の満足度においては、クラスAの住まいの「たいへん満足」の比率が最も高く、それぞれ「33.4%」、「22.1%」であった。
- 冬季の温熱環境の満足度は、クラスAの住まいの満足度が最も高く、「部屋が寒くて使えない、あるいは使いたくない部屋やスペースがある」としている比率が15%以上低い。
- クラスAの住まいの冬季温熱環境の満足理由は、クラスDの住まいと比較して「暖房している部屋とそれ以外の部屋で温度差がない」、「暖房している部屋における上下の温度差が小さい」が高い。
- クラスAの住まいでは、クラスDの住まいよりも、「毛布やひざ掛けをかける」、「カーテン・雨戸を閉める」、「暖房をしている部屋のドアや間仕切りを閉める」などの防寒行動が少ない。
- クラスAの住まいではクラスD の住まいと比較して居間・食堂にある暖房器具が少ない。クラスDの住まいでは、居間・食堂に「石油（灯油）ファンヒーター」のある比率が高く、クラスAは、「全館空調」の比率が高い。

4. 暮らしデータ編

日常生活の省エネ行動 冬季

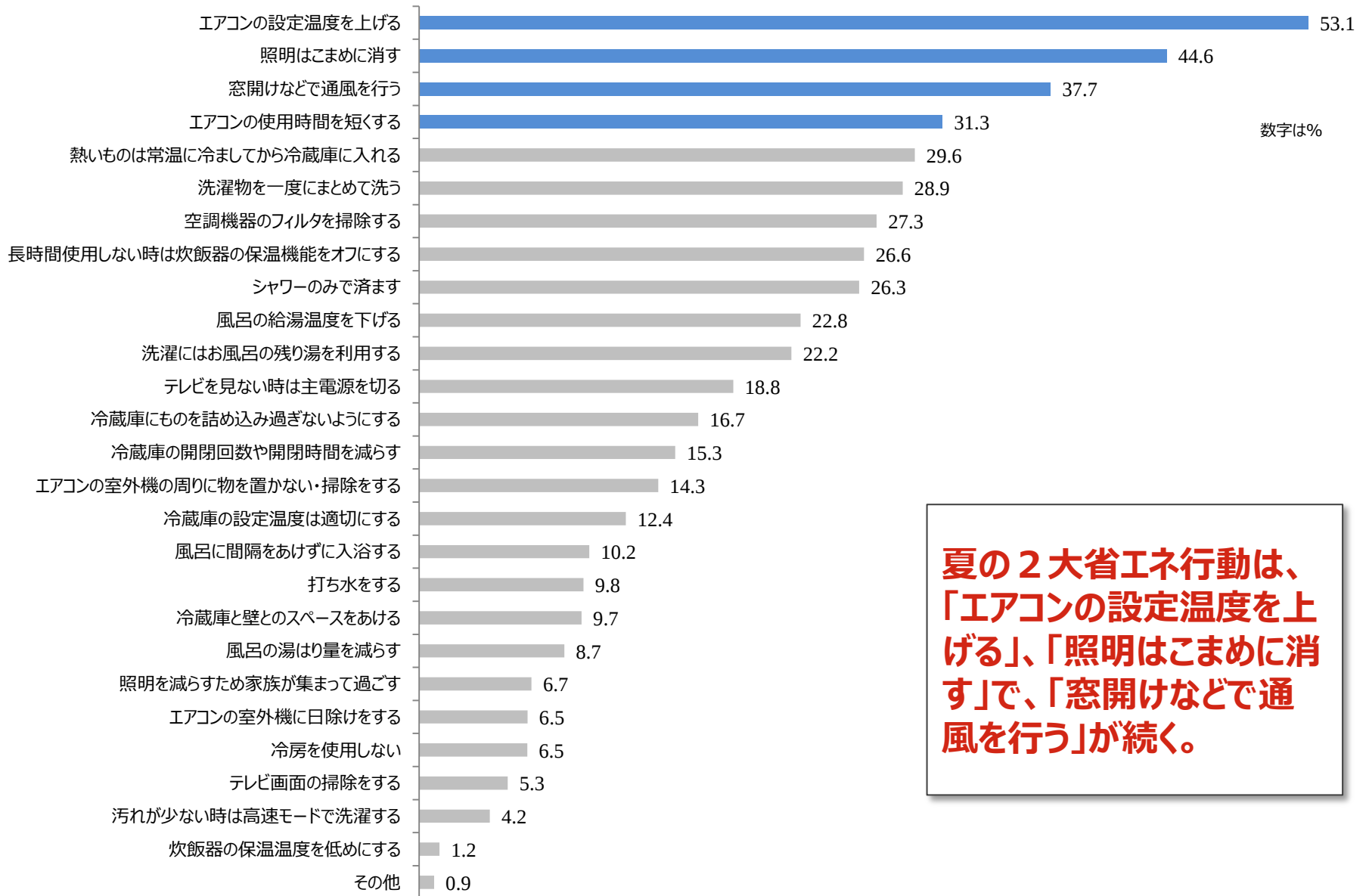
冬季 普段の日常生活において、あなたはどのような省エネ行動をとっていますか。(複数回答)



冬の2大省エネ行動は、「エアコンの設定温度を下げる」、「照明はこまめに消す」で、「エアコンの使用時間を短くする」が続く。

日常生活の省エネ行動 夏季

夏季 普段の日常生活において、あなたはどのような省エネ行動をとっていますか（複数回答）

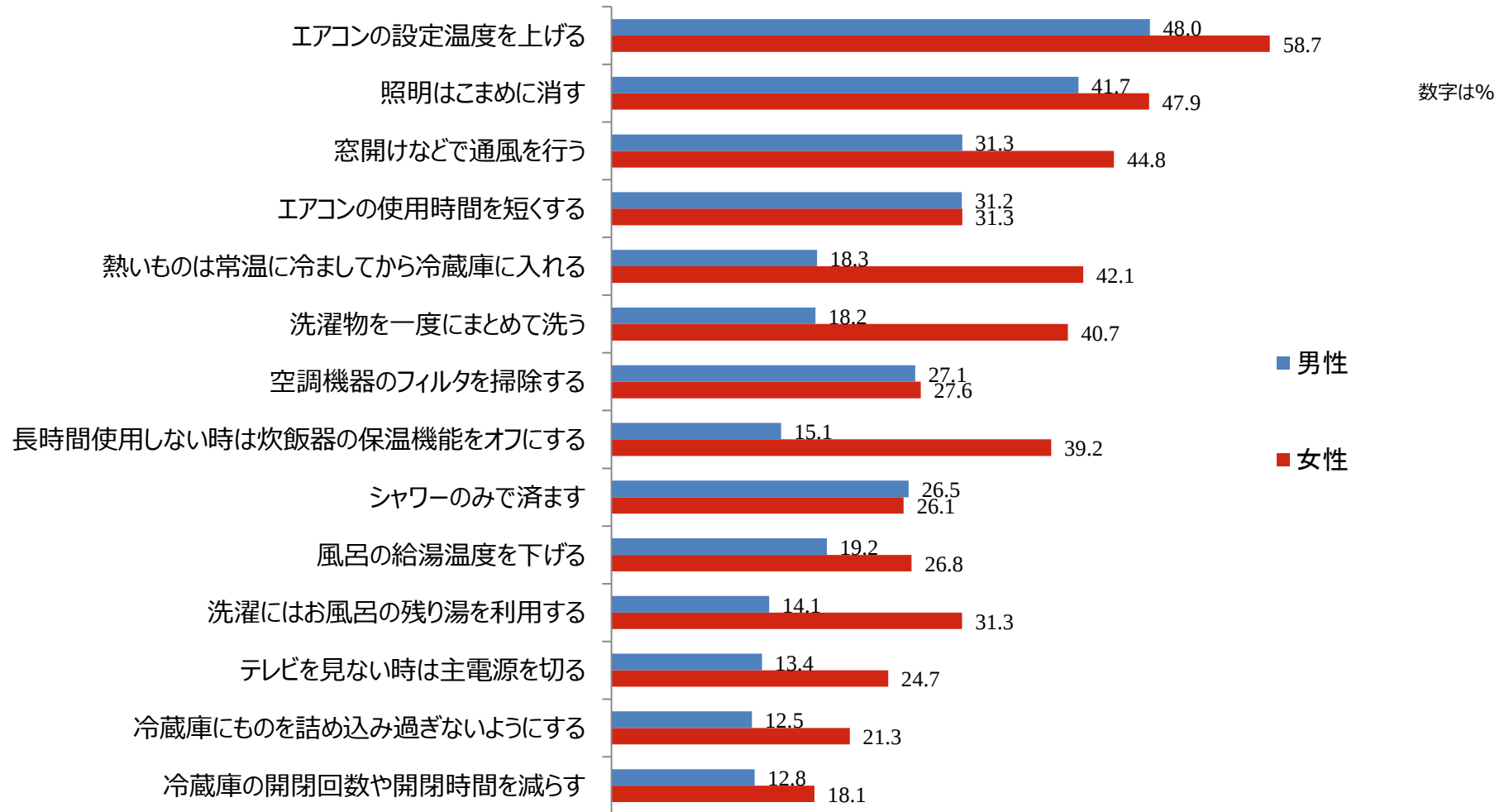


夏の2大省エネ行動は、「エアコンの設定温度を上げる」、「照明はこまめに消す」で、「窓開けなどで通風を行う」が続く。

日常の省エネ行動 男女別 夏季

住まいにおいては、男性よりも女性の方がほとんどの項目で省エネ行動を行っている。

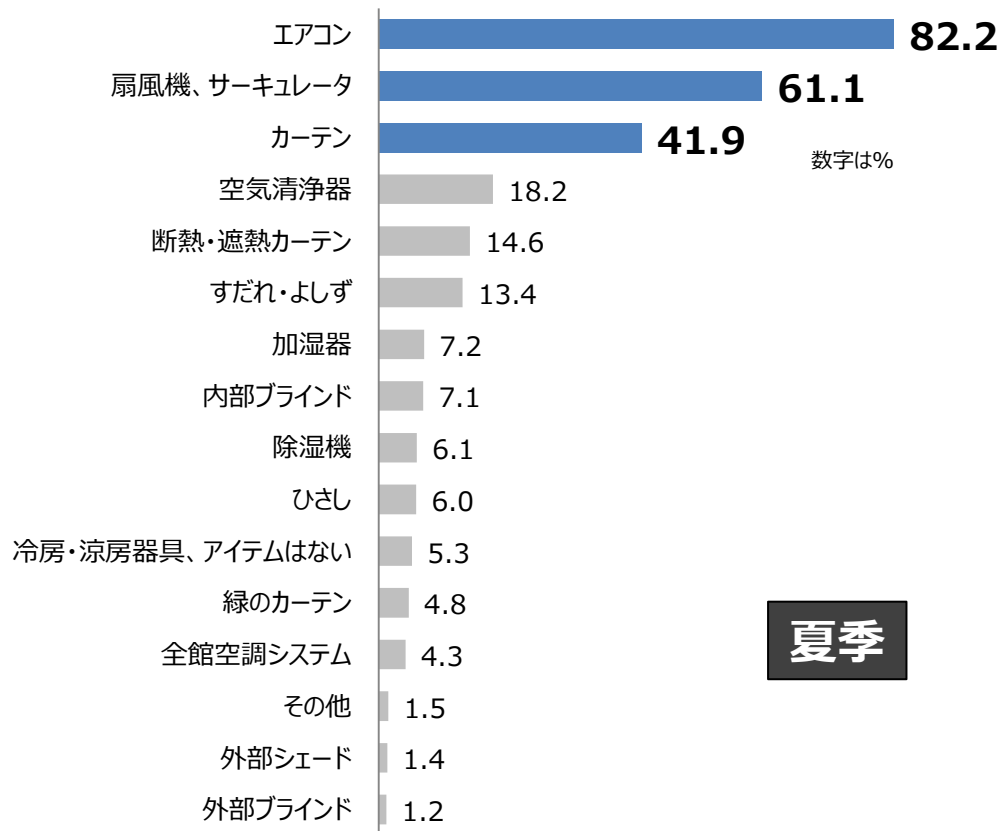
普段の日常生活において、あなたはどのような省エネ行動をとっていますか（複数回答）



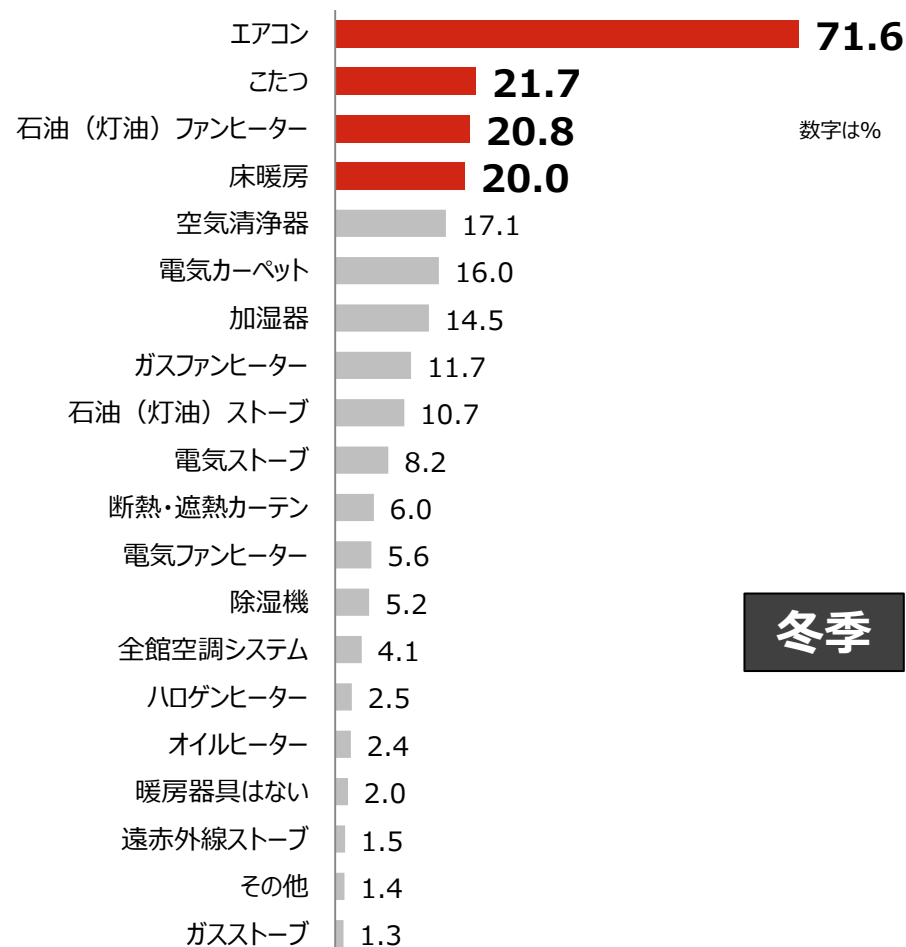
居間・食堂にある暖房器具、冷房器具

夏季居間・食堂にある冷房（涼房）器具は「エアコン」がトップで82.2%、次いで「扇風機」が61.1%。冬季の暖房器具は「エアコン」がトップで71.6%、「こたつ」、「石油ファンヒーター」、「床暖房」が続く。

居間・食堂にある冷房・涼房器具（複数回答）



居間・食堂で使用している暖房器具（複数回答）

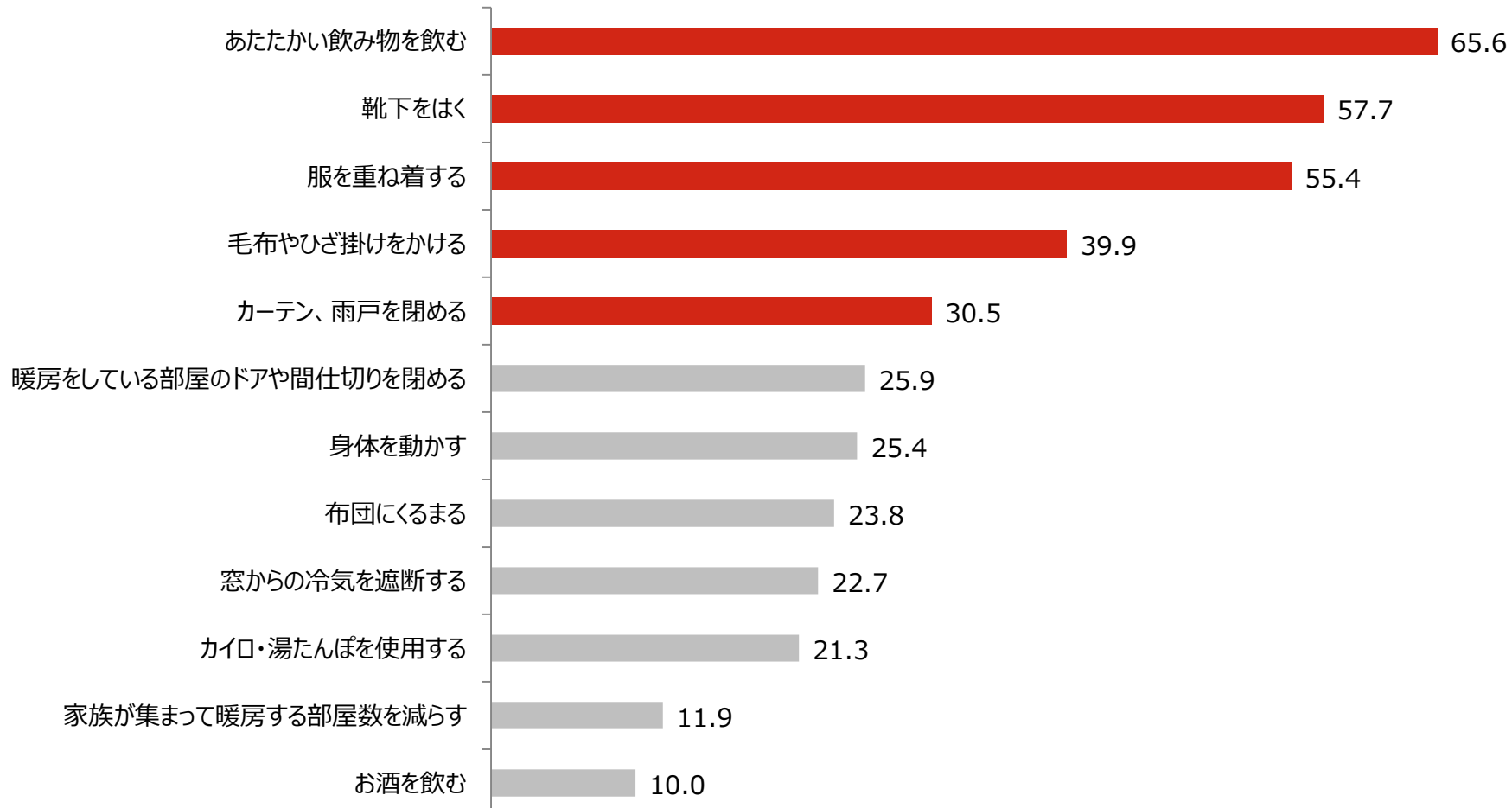


日常生活において部屋が寒いと感じた時の行動 冬季

寒いと感じた時の行動は「あたたかい飲み物を飲む」、次いで「靴下をはく」、「服を重ね着する」といった衣類での調整が多い他、「毛布やひざ掛けをかける」、「カーテン、雨戸を閉める」が続く。

冬季 日常生活において部屋が寒いと感じた時、どのような行動をとりますか。(複数回答)

数字は%



暮らしデータ編まとめ

- 2大省エネ行動は、夏季・冬季とも「エアコンの設定温度の上げ下げ」と「照明はこまめに消す」。2大省エネ行動を含め、多くの行動で、男性よりも女性の方が省エネ行動を行っている比率が高い。
- 夏季居間・食堂にある冷房（涼房）器具は「エアコン」がトップで82.2%、次いで「扇風機」が61.1%となった。冬季の暖房器具は「エアコン」がトップで71.6%、「こたつ」、「石油ファンヒーター」、「床暖房」が続く。
- 寒い時の行動は「あたたかい飲み物を飲む」、「毛布やひざ掛けをかける」に次いで、「靴下をはく」、「服を重ね着する」といった衣類での調整が多い。

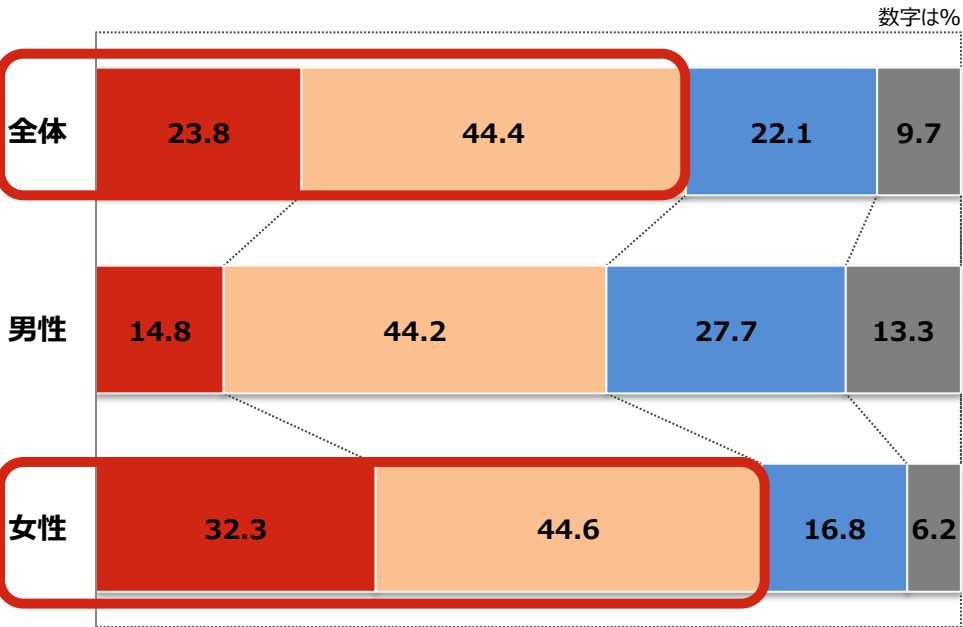
5. 知識・意識データ編

温熱環境が良くなることの効果

「温熱環境がよくなると気持ちや身体にいい影響がある」が68.2%に上り、特に女性では76.9%と高い比率。また、「温熱環境が良くなると行動量が増えると思う」も、女性が59.6%と高い比率になっている。

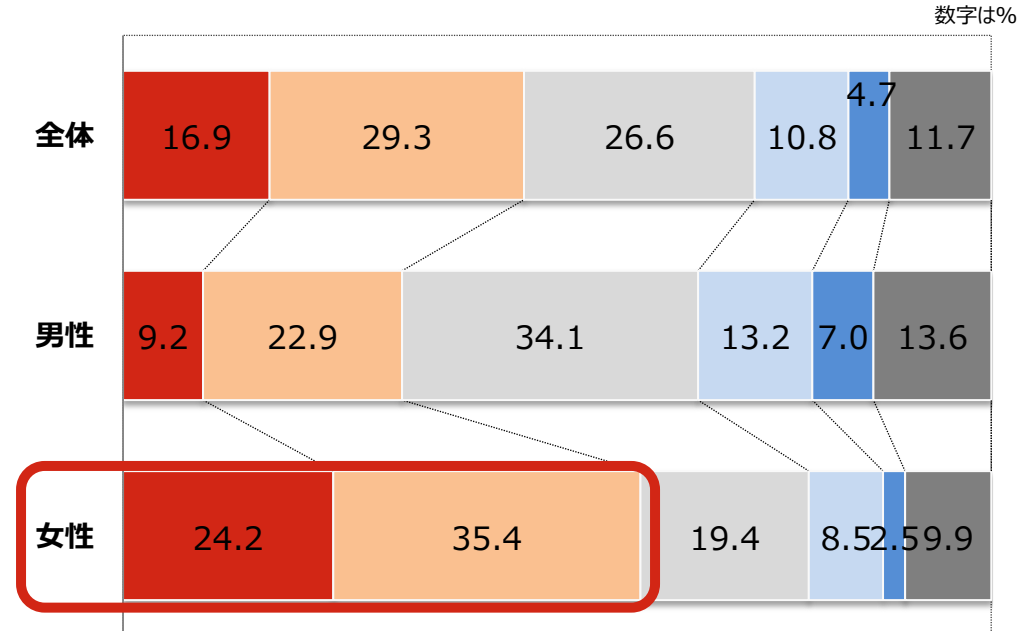
温熱環境がよくなると気持ちや身体にいい影響がある

■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ 当てはまらない ■ わからない



温熱環境がよくなると行動量が増えると思うか

■ たいへんそう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない ■ あまり思わない ■ 全く思わない ■ わからない

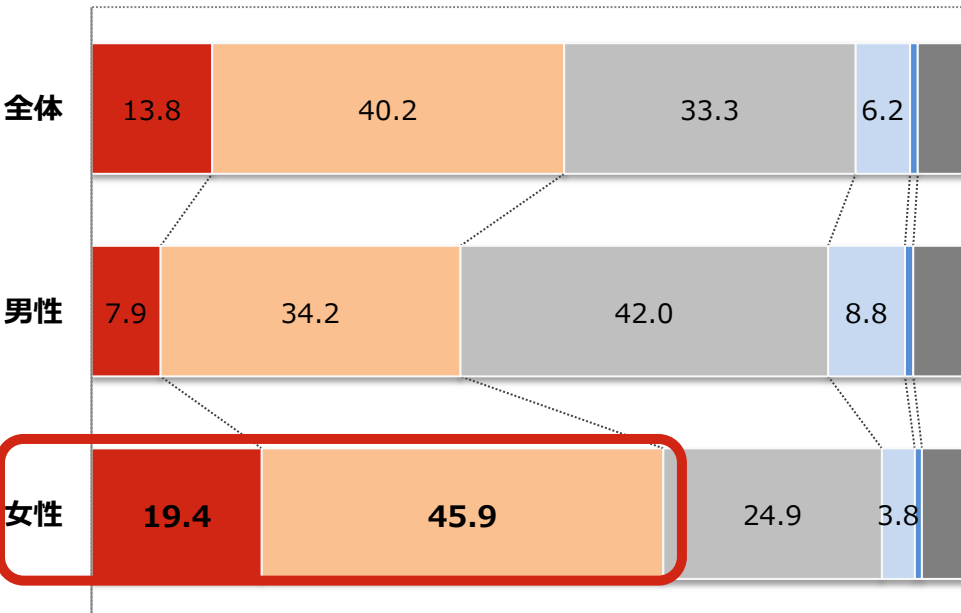


冬あたたかい住まいの価値/住まいの温熱環境の重要性

女性のほうが、「冬あたたかい住まいは家全体を有効に使える」、「住まいの温熱環境は重要だ」と思う人が多い。

冬あたたかい住まいは家全体を有効に使える

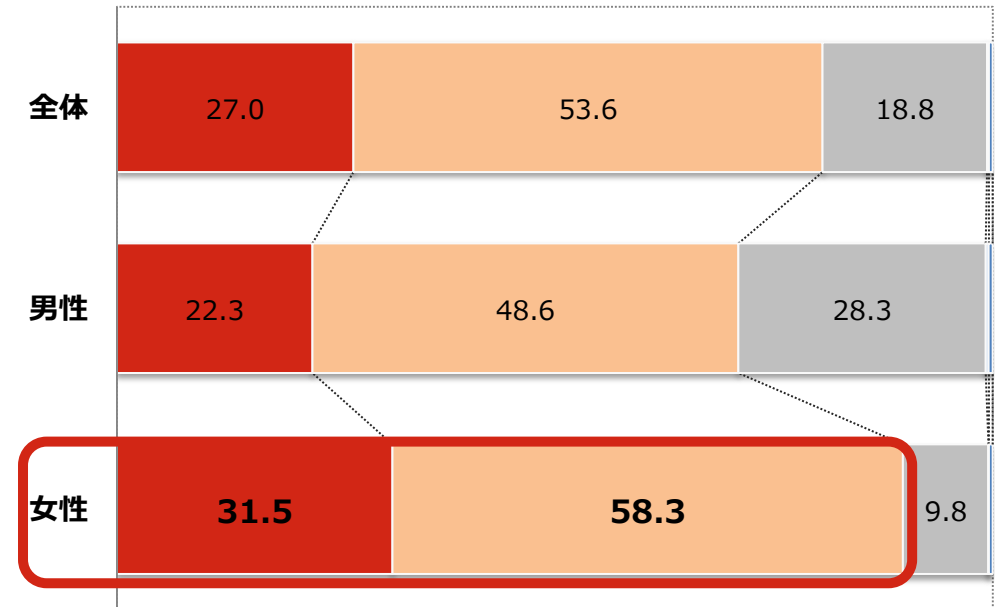
■ たいへんそう思う ■ ややそう思う ■ どちらでもない ■ あまり思わない ■ 全く思わない ■ わからない
数字は%



住まいの温熱環境は重要だと思うか

■ 大変そう思う ■ そう思う ■ どちらでもない ■ あまり思わない ■ 全く思わない

数字は%



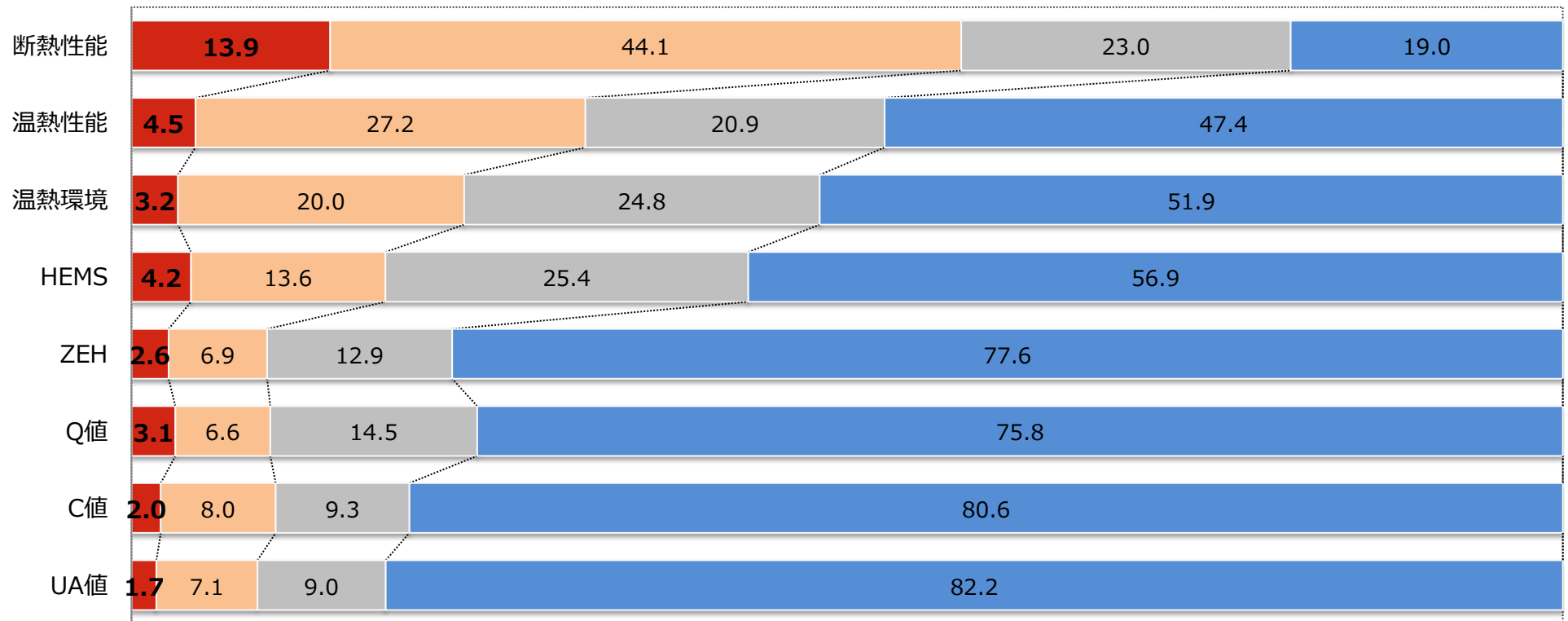
温熱環境関連用語の認知度

温熱環境に関する用語の認知度は全般的に低く、特に「ZEH」「Q値」「C値」「UA値」については「知っている」、「なんとなく知っている」を合わせても10%以下。

言葉の認知度

数字は%

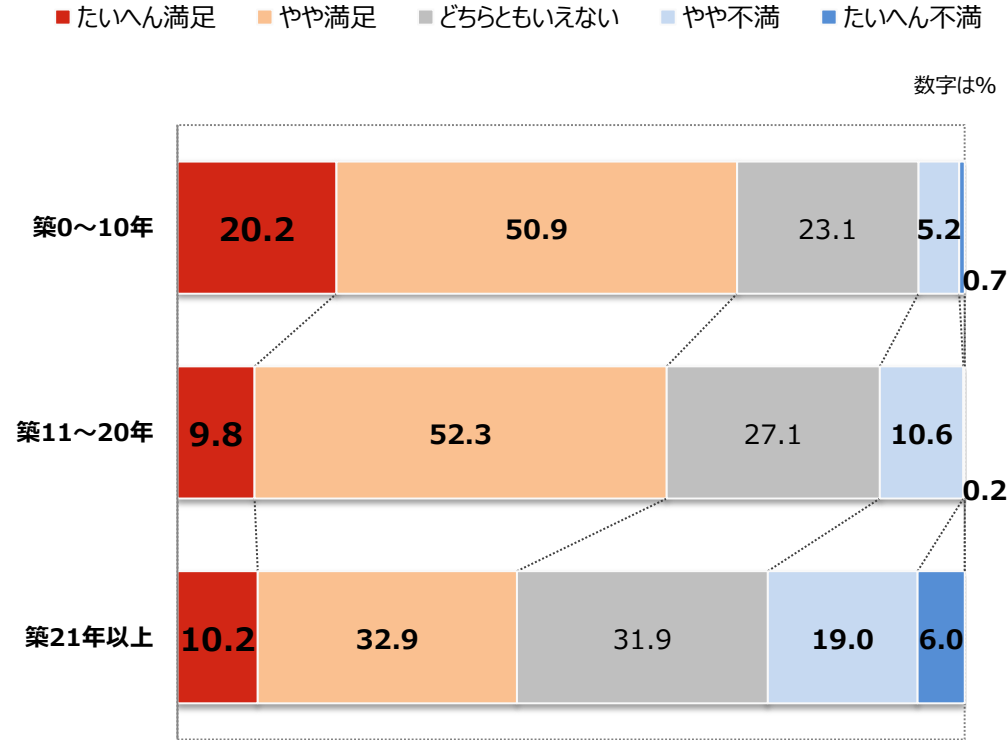
■ 知っている ■ なんとなく知っている ■ 聞いたことはあるが意味は知らない ■ 聞いたこともない



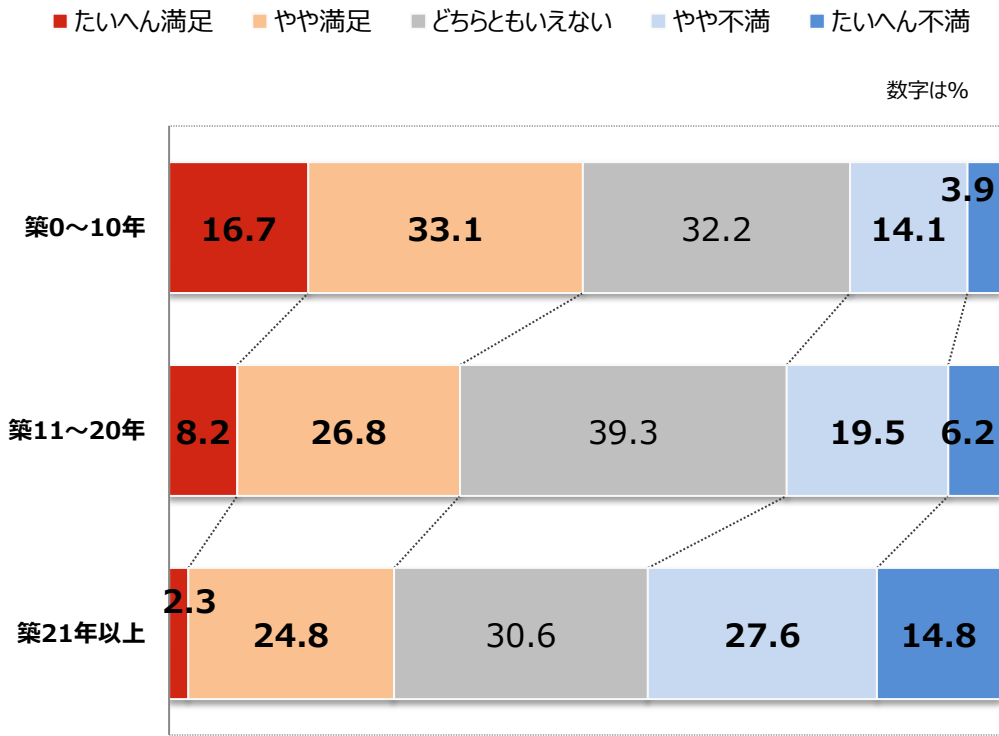
住まいの温熱環境満足度 築年数別

築年数に関わらず、住まいの総合満足度と比較して、温熱環境の満足度が低い。また、築年数が古いほど温熱環境の満足度が低く、不満度も高い。

住まいの総合満足度

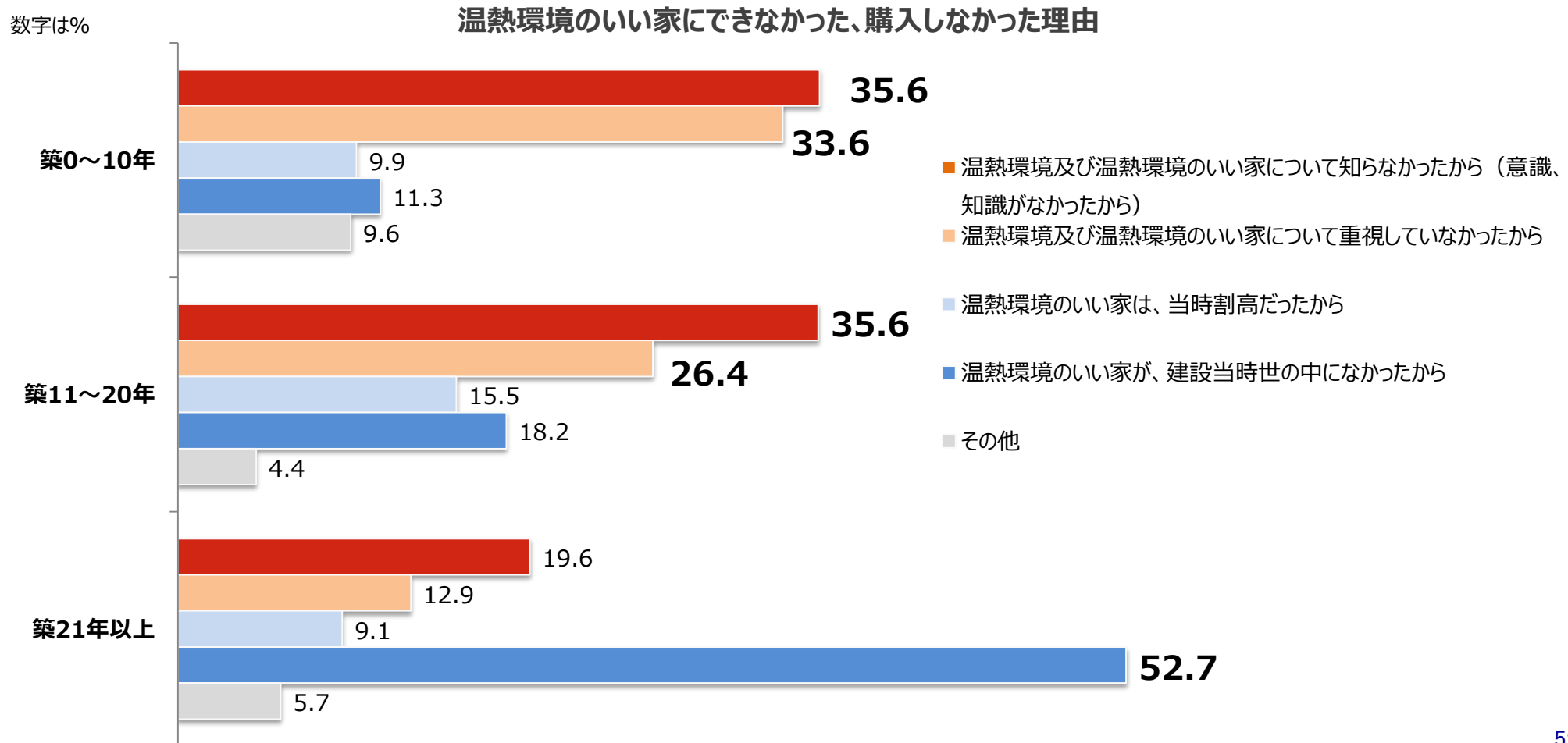


住まいの温熱環境(あたたかさ、涼しさ)に対する満足度



温熱環境のいい家にできなかった理由 築年数別

築年数が浅くても、温熱環境のいい家にできなかった理由に、「温熱環境のいい家について知らなかったから」、「温熱環境のいい家について重視しなかったから」をあげる人が多い。築21年以上の住まいでは「温熱環境のいい家が建設当時世の中になかったから」とする人が5割を超える。

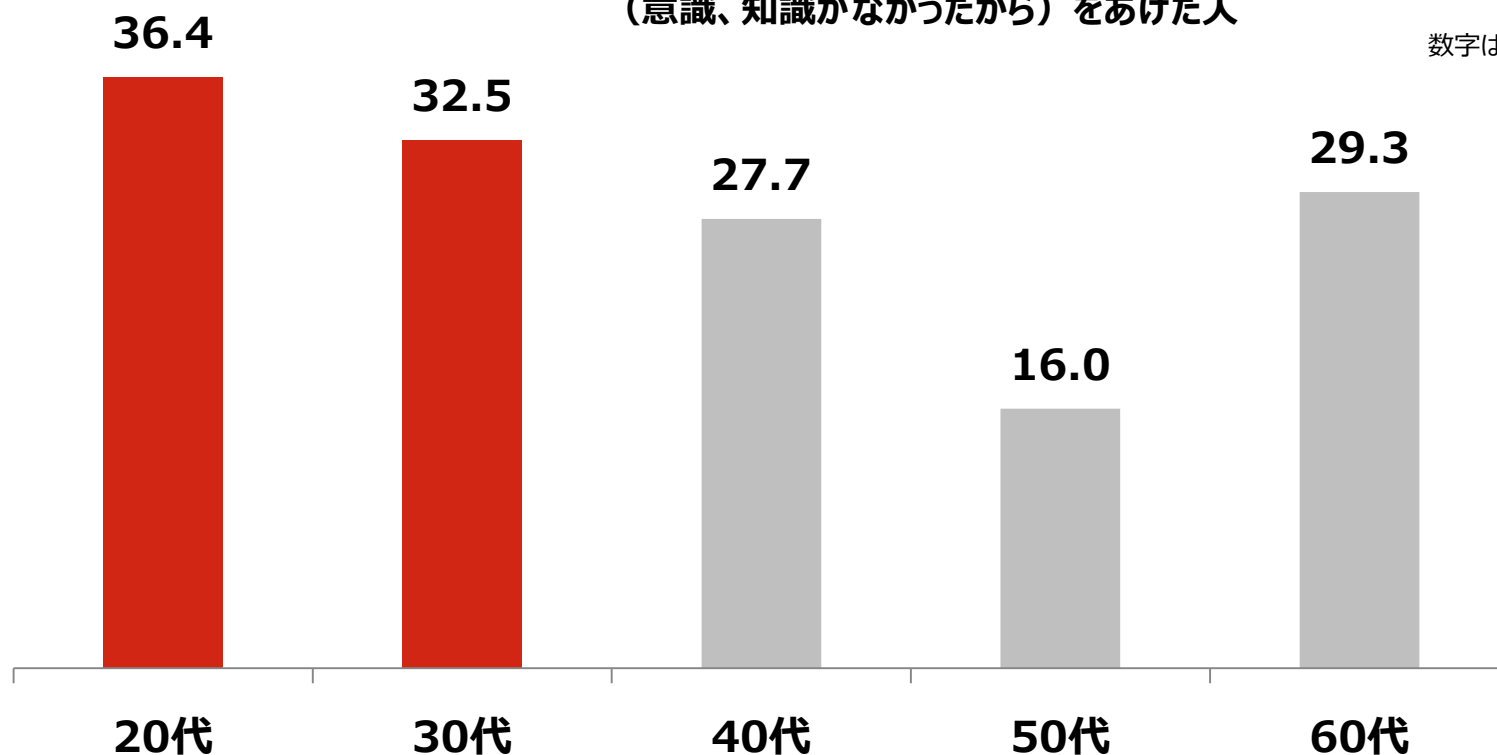


温熱環境のいい家にできなかった理由

温熱環境の良い家にできなかった理由として、「温熱環境のいい家について知らなかったから（意識・知識がなかったから）」をあげた人は、20代、30代での比率が比較的高く30%を超えている。

温熱環境のいい家にできなかった理由として、
温熱環境及び温熱環境のいい家について知らなかったから
（意識、知識がなかったから）をあげた人

数字は%



知識・意識データ編まとめ

- 「住まいの温熱環境が良ければ家族の気持ちや身体にいい影響を与えると思う」が68.2%に上り、特に女性では76.9%と高い比率。また、「温熱環境が良くなると行動量が増えると思う」、「冬あたたかい住まいは家全体を有効に使える」、「住まいの温熱環境は重要だ」と思う人も女性の方が多い。
- 温熱環境に関する言葉の認知度は全般的に低い。特に「ZEH」「Q値」「C値」「UA値」については「知っている」、「なんとなく知っている」を合わせても10%以下。
- 築年数が古いほど温熱環境満足度が低く、不満度も高い。築10年以内に建設した人でも温熱環境のいい家にできなかった理由として「温熱環境のいい家について知らなかったから」、「重視しなかったから」をあげる人が多く、それぞれ30%を超える。
- 温熱環境の良い家にできなかった理由は、「温熱環境のいい家について知らなかったから（意識・知識がなかったから）」をあげた人は、20代、30代での比率が比較的高く30%を超えている。

基本データ

室温別データ

暮らしデータ

地域別データ

知識・意識
データ

ポイント

1. 住まいの総合満足度と比べて、温熱環境の満足度が低い。
2. 住まいの温熱環境の満足度は北海道が最も高い。
3. 冬季室温の高い住まいに暮らす人の方が、温熱環境の満足度が高く、防寒行動が少ない。
4. 男性よりも女性の方が、省エネ行動に関心が高い。
5. 「住まいの温熱環境が良ければ、家族の気持ちや身体に良い影響を与える」に共感する人が多い。



温熱環境の良い住まいを普及するために、
その顧客価値を明確にし、20代、30代、女性を中心に、
意識・知識を高める活動を推進する。

顧客価値（仮説）

環境／空間

快適な温熱環境
温度ストレスの少ない空間



暮らし

意識・気持ち・行動
暮らしの質の変化

IV. 今後の活動計画

今後の活動計画

情報発信

■ 快適空間ラボラトリー 夏の見学会

- ・ 期間：2017年7月6日～10月上旬（予定）
- ・ 場所：茨城県 猿島郡 境町（ネオマフォーム工場近接地）
- ・ 概要：体験棟- 当社断熱材（ネオマフォーム）を採用した温熱環境に優れた住まい
展示棟- 断熱材だけでなく、温熱性能、断熱性能の理解を深めるための施設
- ・ 対象：工務店向け

■ 情報誌発行

- ・ 名称：「あたたか族」第2号
- ・ 内容：あたたかい暮らしを目指す人々のためのライフスタイル誌
- ・ 発行予定日：2017年8月上旬
- ・ 対象：生活者向け

啓発活動

■ 生活者向け フォーラム

- ・ 「夏を涼しく、冬をあたたかく暮らす住まいづくり」フォーラム開催
- ・ パネリスト（予定）：早稲田大学理工学術院 創造理工学部建築学科教授 田辺新一氏
株式会社みさき建築研究所 代表取締役 御前好史氏
- ・ 主催：旭化成建材 快適空間研究所、旭リサーチセンター ハビトゥス研究所
- ・ 開催時期：2017年 7月22日（土）

■ 生活者向け 見学会

- ・ 「快適空間」体験ツアー 快適空間ラボラトリーの体験
- ・ 開催時期：2017年 8月27日（土）

AsahiKASEI
旭化成建材